

未来教育 6

【コンピテンシー育成への教員研修の実施と成果】

文部科学省採択事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」

『課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ
教員研修プログラムの開発～コーチング指導による「コンピテンシー育成」
を目指して～』

報告書（H22）より

シンクタンク未来教育ビジョン

第Ⅳ章 コンピテンシー育成への試行的教員研修の実施

い) 試行的教育研修の意義（複数会場で実施する目的）

全国の複数カ所で試行的研修を行うことで全体性が見え、より汎用性あるプログラムを生み出せる可能性があります。

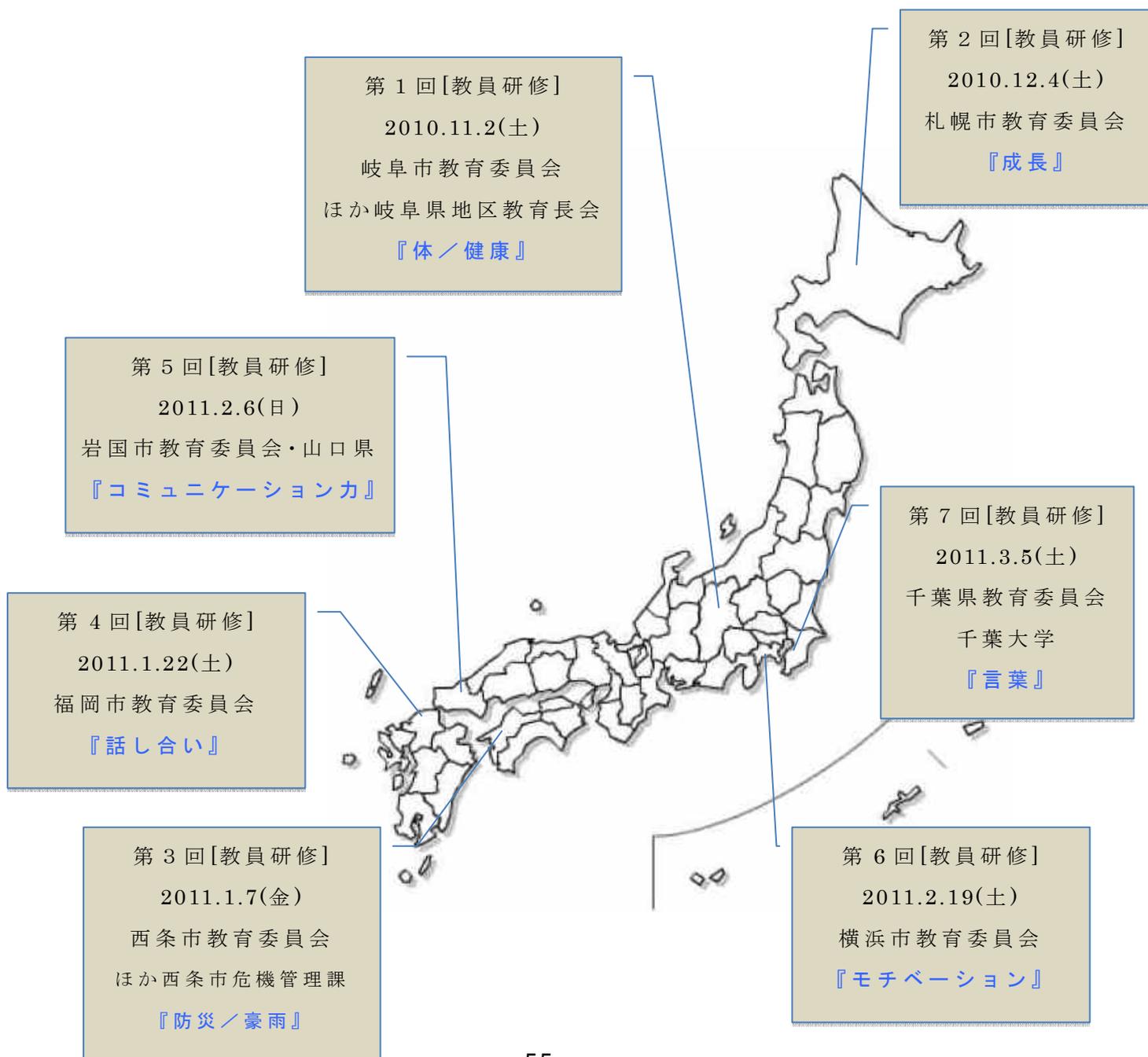
さらに各地で実施することで得られる視点は以下のとおりです。

視点1：新学習指導要領にあるいくつかの「題材」（以下青字）を柱とできる。

視点2：主催者や参加者層の違いによる展開の工夫が浮き上がる。

視点3：地域性（人口、都市部）による特徴を見出せる。

言語活動を重視・課題解決力：コンピテンシー『教員研修』全国7カ所における実施場所



ii) 教員研修リスト

■ 文部科学省 採択事業／コンピテンシー育成『教員研修』実施リスト

	地区:日時	主催・後援	会場
第1回	岐阜 11.2(土) 10:00～16:30	○主催: 岐阜市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:岐阜地区教育長会	岐阜市教育研究所 80名
第2回	札幌 12.04(土)	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:札幌市教育委員会	札幌市立厚別通小学校 30名
第3回	愛媛 01.07(金) 9:30～4:30	○主催: 西条市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:西条市危機管理課	西条市中央公民館 55名
第4回	福岡 01.22 (土) 10:00～16:30	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:福岡市教育委員会	福岡市立愛宕小学校 30名
第5回	山口 02.06(日) 9:30～4:00	○主催: 岩国市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:山口県教育委員会	岩国市立麻里布小学校 25名
第6回	横浜 02.19(土) 9:30～16:30	○主催: 横浜市教育委員会 ○協力: シンクタンク未来教育ビジョン	横浜市教育委員会南部学校 教育事務所 30名
第7回	千葉 03.05(土) 9:30～16:30	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:千葉県教育委員会 ○協力:千葉大学 教育学部	千葉大学稲毛キャンパス 教育学部5号館 50名

	研修担当者 (ファシリテータ)	プロジェクト研修の「題材」と「知の成果」 題材: 目標等	新学習指導要領 採用教科書
	七野武稔指導主事 岐阜市教育委員会学校 指導課岐阜市教育研 究所主幹 (吉川、長 岡)	題材: 健やかな体 「教師がつくる教師のための 健康ハンドブックをつくる！」	72P.88P.92P.102 P.110P 教科書(国語): 光 村
	大野睦仁 教諭 札幌市立厚別通小 学校(安藤、若槻)	題材: 成長・意欲 「こうすれば教師がポジティブに成長し続けら れるアイデア集をつくる！」	72P.110P (国語: 光村)
	安藤宏幸 校長 多賀小学校校長 (川崎、千羽)	題材: 防災(集中豪雨) 教師がつくる教師のための 「かってない豪雨! そのときこうする行動提案 集をつくる！」	34P.36P.67P. 110P (国語: 光村)
	稲益義宏教諭 福岡市立愛宕小 学校(若槻、 大野)	題材: 「話し合い」 「こうすれば子どもたちの話し合いが活発に なる! アイデア集をつくる！」	43P.110P (国語: 光村)
	長岡豊教諭 岩国市立麻里布 小学校 研修主 任	題材: 「コミュニケーション」 「こうすれば子どもたちのコミュニケーション力 が高まる実践活用集をつくる！」	18P.110P (国語: 光村)
	増田昌浩指導主 事 横浜市教育委員 会指導企画課 (宮下)	題材: 「モチベーション」 「仕事・学校をおもしろくするために「こうす えばモチベーションがアップする! 具体的な提 案書をつくる！」	110P (国語: 光村)
	永島俊之教諭 富津市立竹岡小 学校教務主任 (鴨下)	題材: 「言葉」 「教師がつくる教師のための、こうすれば子 どもがイメージしたものを言葉にしたくなる! ア イデア集をつくる！」	37P 110P (国語: 教育出版)

事業の内容: 各教科等における言語活動を、課題解決能力やコミュニケーション能力、批判的な思考能力などの育成に効果的につなげるための取組事例の収集及び授業改善のあり方や教材、教員への研修手法等の研究・開発を、学校や教育委員会等と連携しつつ実施する。(文部科学省ホームページより抜粋)

iii) ワークショップ手法による「教員研修」の基本展開と結果
 《ワークショップ全体の流れ》

第1回 教員研修（ワークショップ）岐阜会場

- 日時： 2010年11月20日（土）10:00～17:00 岐阜市教育研修所
- 題材:「教員の健康」
- 参加者:岐阜市教育委員会指導主事等19名、
 一般教員61名(小学校38名、中学校15名、特別支援6名、その他2名)

講 義	10:00	<p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>	 
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	10:40 11:15 11:45 13:30	<p>全体の目的：ビジョン 意志ある<チームづくり></p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p> <p>プレゼンテーション（評価：付箋）</p>	
講 義	13:45 14:00	<p>事例紹介（西小学校）</p> <p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA型学力・言語活動を充実させるコーチング手法</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	15:40 16:00	<p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活かし方を考え出す。</p> <p>アイデア共有 研修のプロダクトを生み出す活動 「子ども達の言語活動・活用力を高める方法への提案」 （参照 WS2成果）</p>	
	16:20 16:30	<p>アンケート 終了</p>	

題 材：『健康』

目 的(ビジョン)：教師として元気に仕事をするために

目 標(ゴール)：「教師がつくる教師のための健康ハンドブック」を作る！

〈チームづくり〉のカテゴリー

○ 睡 眠

○ 食 事

○ メ タ ボ

○ 運 動

○ サ プ リ

○ ダイエット

○ 腰 痛

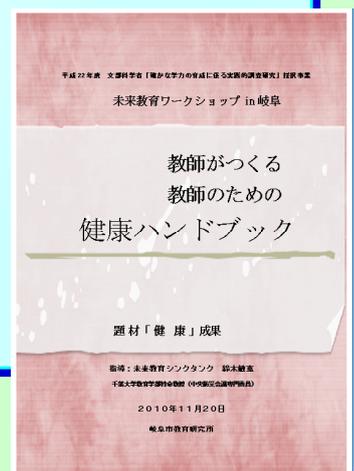
○ リラックス

○ 心 の 健 康

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 5時間でもぐっすり熟睡できる方法を提案します。
- 2 朝、布団からなかなか出れない先生のために、スッキリ目覚める方法を提案します。
- 3 雨の日の月曜日でも学校へ行きたくなってしまうアイデアを提案します。
- 4 勤務中の普段の行動に一工夫した運動の方法を提案します。
- 5 給食をしっかり食べても脂肪を減らす方法を提案します。
- 6 デスクワークが続いたとき、5分でできる肩こり解消法を提案します。
- 7 家族サービスが気になっているあなた、家族と共にリラックスタイムを作る方法を提案します。
- 8 学校で仕事のきりのつけ方を提案します。
- 9 放課後、教室でできる腰の痛みを和らげる方法を提案します。
～あなたも3分で楽になります～
- 10 夜遅く食事をする人のために、満腹かつヘルシーな食事のとり方を提案します。
- 11 遅い時間に食べても太らない食事のとり方を提案します。

WS1の成果物→



「ワークショップ手法による教員研修 in 岐阜」 参加者へのアンケート結果

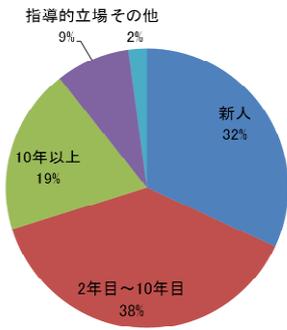


図1 研修会参加者の職位・経験年数

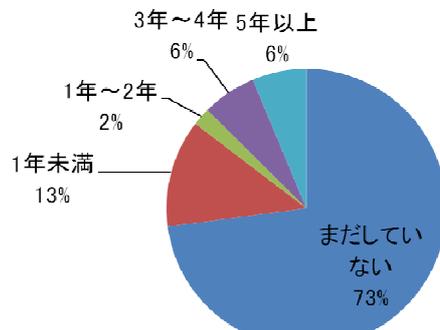


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

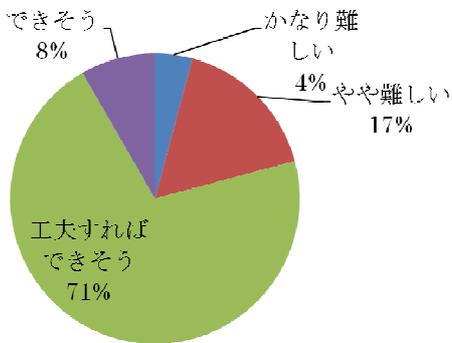


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

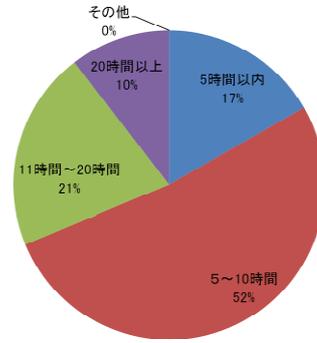


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

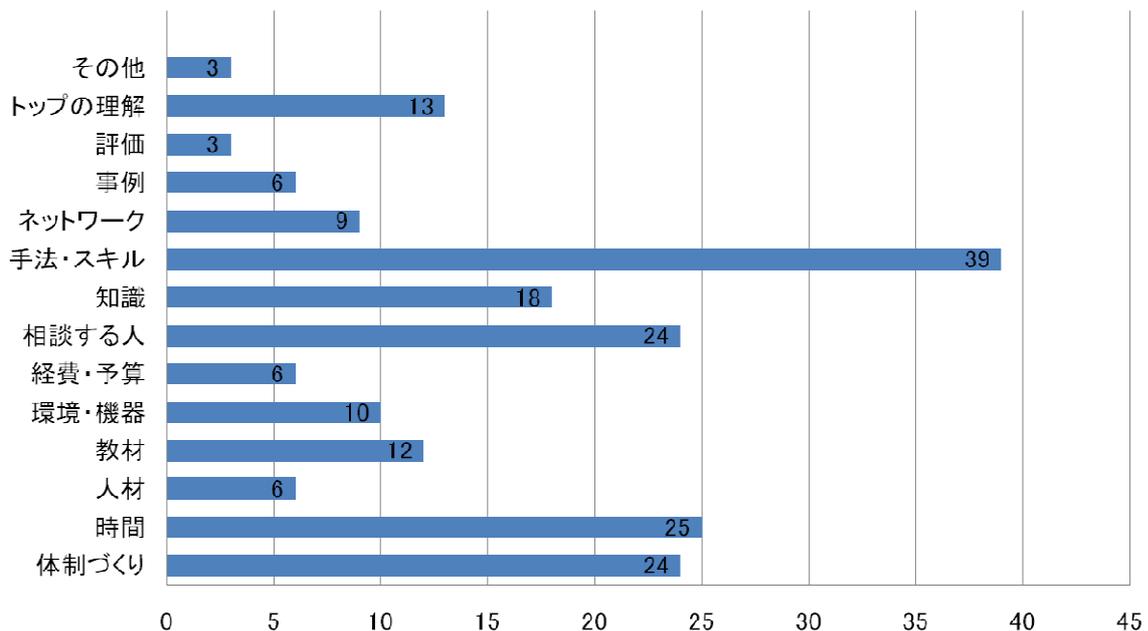


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 岐阜（自由記述）

<肯定的評価>

- 魅力的な指導法なので活用したい。
- プロジェクト学習に近い指導を行っているので、体系的に行えば実践が可能となる。
- 多様な例を知り、自分で実践することができたから。
- 生徒が目標を持つ、人のために役立つ、そのためのコーチングを学べた。
- 小学校のいろいろな教科に関連させて行うことができそう。
- 目標、身に付けたい力が明確で、わかりやすいから。
- 学級や教科の学習で使えるところは使っていきたい。
- 教師が子どもに投げかける言葉、与える視点をしっかりもっていないといけない。
- 今まで実践してきたことと発想が似ている。
- 総合的な学習の有効活用が必要。
- 言葉のかけ方や生徒に軸をおいて考えたら、見直すことがたくさんあると思った。
- 全ての教科ではなく、プロジェクト学習で何を育てるか考え、どこに取り入れるか決めていけばよい。
- 身に付けたい力をつける学習はその場面でも活用していける。
- 学習の見通しを持つ、全体を俯瞰することは教科で当てはめることができる。
- 自分がやって楽しいと思った。
- 発言の少ない子どもにも個に応じて活用していきたい。
- 子ども自身が願いを叶えるという必要性を感じてくれそうだから。
- 学びの道筋がはっきりしており、子どもが自分の成長をみつめ、やりがいをもって学習していく。
- 教師がしっかり理解して取り組めば、子どもに力を付けられる。
- どんな場面で活用できるか、今後整理していきたい。
- 教育全体で、どの場面でも、いろいろな力を引き出すことができそう。
- 子どものためになるという自分のモチベーションが高まった。
- 研修を受けてよくわかった。
- シュミレーションやアイデアの共有により具体的な方法やコツがわかった。
- 考え方やコーチングは様々な場面で活用できそうだと感じた。
- 自分の学級経営に活かしていけそう。
- 教材を使えばできそうだと感じた。
- いろいろな場面で活かせることがわかったから。

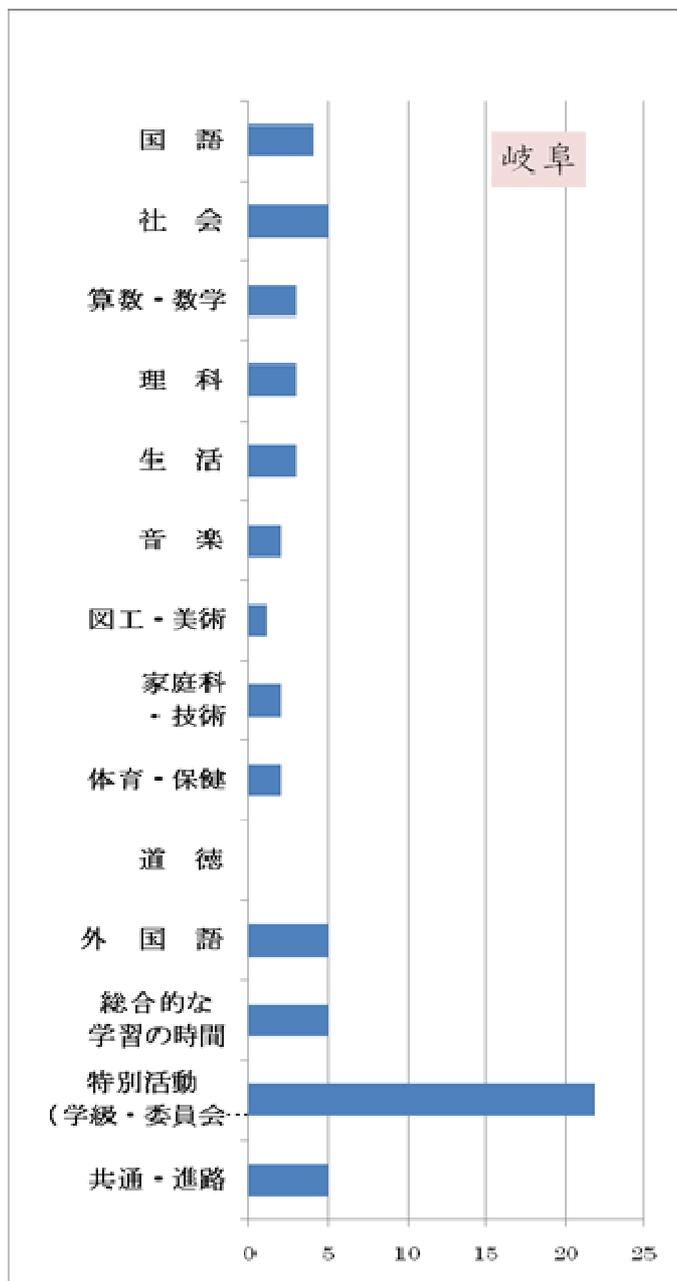
< 課題 >

- 用語が難解。小学校3・4年生には難しい。
- 子どもの考えに対して、コーチングでよい方向に導くことが難しそう。
- 何をどうしたらよいかまだよく理解できていない。
- 学校行事が多くて、時間がない。
- 教師の柔軟さが必要であると考えられるため。
- プロジェクト学習すべてを取り入れるには時間的に難しい。
- 自分の担当する教科の授業時間が少ないので、現在無の現状ではやるのがややつらい。
- 経験不足で学んだことがすぐ生かせるかわかならぬ。コーチングならできそう。
- 自分の指導力がまだ十分でない。準備が大変そう。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆国語：「発信しよう」編

- ・教材を使って学んだことを、今度は自分で課題を決め、調査し、発信していくという単元。今までは教科書の題材を少し発展させたものや幾つかのこちらからの提案を子ども達が課題とすることが多かった。今後は、まず自分が何を問題として捉えているのか、子ども自身が考え、その課題について調べ、提案していく。

☆英語：「Unit7 カナダの学校生活」編

- ・「カナダと比べて日本の学校はどう？」
「他の国はどう？」
- ・ビジョンとゴールの決定
「他の国々はどうなっているのだろうか」
「世界の学校生活が一目でわかるように紹介するパンフを作成する」
- ・計画
- ・情報を集める
「ALT へのインタビュー」「インターネット」「本など」
- ・制作
「教科書の英文を参考にして、紹介英文を作成する」
「図や写真も入れる」
- ・プレゼン
「英語で」

☆体育：「跳び箱」編

- ・「自分がどのような跳び方(技)ができるようになりたいか」
- ・「今、自分はどのような動きが出来るのか」
- ・「どのような練習をすればよいのか」
(様々な練習方法とその効果を分かり易く伝え、上手に出来るための方法を決める)

☆社会・生活科：「おうちの人の仕事」編

- ・ゴール：「自分のためにお家の人がしてくるヒミツは何？」
目標：「選択、掃除、食事など家の人がいろいろな仕事によって自分が支えられえていることがわかる」
- ・今までは「洗濯調べをしましょう」だけだったけど、もっと広域にして興味・意志をもって取り組ませるために。
・各々が探検隊になって、いろいろなグループ(洗濯、掃除、食事など)に
わけて一人ひとりが興味を持って活動させ、ポートフォリオを集めさせる。
「家でメモを取らせる」、「交流する」など

□ 【ビジョン・ゴール】

- T「健康ってなんだろう？」
- T「健康について、意識していることはどんなこと？」
- T「今健康について、知っていることは？」
- T「今健康について、していることは？」

コンピテンシーは知識ではなくて、行動化とか、活用力、応用力なので自分からそれを使おうと思うためには、そのテーマや題材に価値を感じるということが学習の導入に不可欠である。

「今健康について知っていることはなに？」このように聞くことによって参加者がポートフォリオシート集の4に、今健康について自分の知っていることを書き出す。そこで、健康について無意識だったことが意識化される。意識化されるから、学習者たちは、「これが問題だ。」「あれが問題だ。」「もっとここをよくしたいなあ。」「睡眠が足りてないなあ。」「眠れてないなあ。」「メタボだ。」といったように、自分の健康について「自分ごと」として意識するからこそ課題発見ができる。課題発見ができなければ、自分のビジョン(目標)とゴール(目的)は決められない。このように、同じ関心事で集まったチームに講師がコーチングをすることで、チームテーマが明確になっていく。

T「身体のどこが不調なの？」

T「睡眠って、寝る前と、寝てる時の熟睡と寝起きの3つのシーンがあるよね。どんなシーン？」

チームの模造紙に書く目標が、誰が見ても同じ映像が浮かぶ焦点の絞れた目標になるようにコーチ役をつとめるものが、コーチングしていくことが大事である。



□ 【計 画】

- T「あなたが使える時間はどれくらいあるの？」
- T「そのためにすべきことはななに。」「ほかには？」
- T「いいねえ。」
- T「絶対にしなければいけないことはななに？」

言語活動の充実ということは、子ども達が頭の中で考えるということだけでなく、自分のすることが書き出せるということが表現力、計画力という点で非常に大事である。ここで注意することは、発散と収束である。自分のアイデアを出し切る。そして、それを可視化していく。言語活動を充実させるということは、そのような知的な手法を学習に取り入れることである。

次に、大きな紙にこれからすべきことを絞り込む必要がある。その際には、ゴール達成のために自分がしなければならないことを総て出し切り、その中から必要なことを絞り込むという事ができるようになる。発散と収束、これが計画の時に必要な行為である。

□ 【情報リサーチ】

- T「根拠ある情報は、どうしたら手に入るの？」
- T「それがどうして根拠ある情報だとわかるの？」
- T「その情報が一番新しいってどうしてわかるの？」

情報を調べるために、「じゃあ、調べますよ。」とか「アンケート作ります。」とか言うのではなく、例えば、「あなたが今、使える手段はななに。」と情報手段を問うこと。また、「インターネット！」という答えに対して「他には？」と問う。インターネットだけではなく、健康という題材には多面的に、根拠ある情報を獲得する必要がある。ここが、健康を題材にする価値である。今回の読解力の定義が「自らの目標を達成するために、テキストから必要な情報を獲得し、熟考し、そしてそれを…」ということが書かれている。ここで、子ども達の読解力が高まるコーチングとなる。

また、健康という題材故に刻々と新しい発見が医学的にも、栄養学的にもなされている。

《ワークショップ全体の流れ》

第2回 教員研修（ワークショップ）札幌会場

- 日時： 2010年12月4日（土）9：30～16：30 札幌市立厚別通小学校
- 題材：「教員の成長」
- 参加者：一般教員30名（小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名）

講 義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>	 
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	<p>10：20</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>10：55</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p> <p>13：15</p> <p>プレゼテーション（評価：付箋）</p>	
講 義	<p>14：00</p> <p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA型学力・言語活動を充実させるコーチング手法</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	<p>15：50</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>16：00</p> <p>アイデア共有 （参照 WS2成果）</p>	
	<p>16：20</p> <p>アンケート</p> <p>16：30</p> <p>終了</p>	

題 材：『教員の成長』

目 的(ビジョン)：教師一人一人自分の可能性をフルに高められる学校にするために

目 標(ゴール)：教育学部の学生からベテラン教師に役に立つ
「こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！」アイデア集
をつくる！

〈チームづくり〉のカテゴリー

情報共有

学校・環境

職員研修

時間管理

生活のバランス・メリハリ

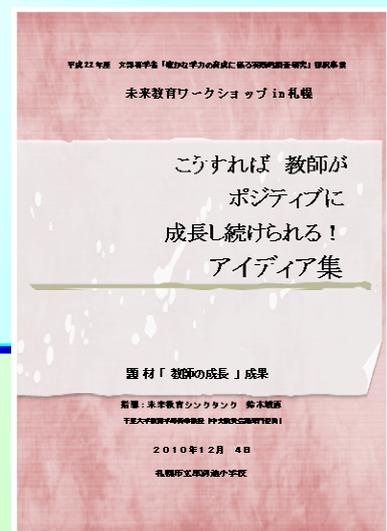
自己研鑽

気付き・感性

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 PCを活用して、1分以内に日常的に役立つ授業テクニックが手に入る方法を提案します。
- 2 教室の掲示物からその先生の学級づくりのコツのつかみ方を提案します。
- 3 ネガティブな先生もうまく巻き込んで職場全体で自己研鑽を進める方法を提案します。
- 4 全員が自分の考えをしゃべることのできる「やって元気になる」研修の作り方を提案します。
- 5 やるべき仕事を精選する方法を提案します。
～限られた時間を有効に使うために～
- 6 なごむ職員室づくりを提案します。
～意欲と効率を高める仕事しやすさのために～

WS 1 の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 札幌 参加者へのアンケート結果

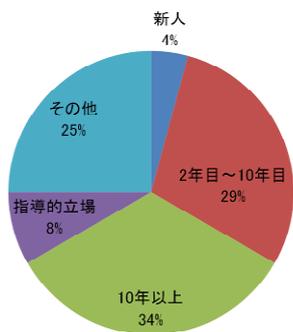


図1 講演会参加者の職位・経験年数

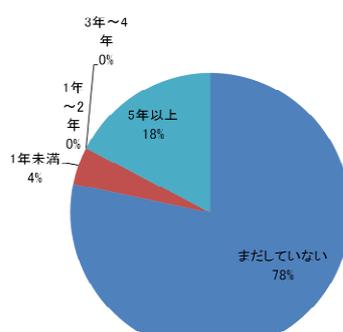


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

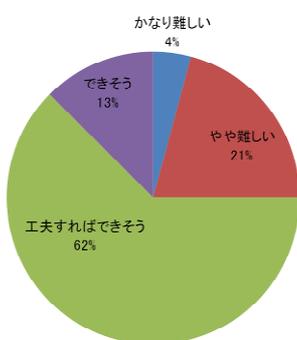


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

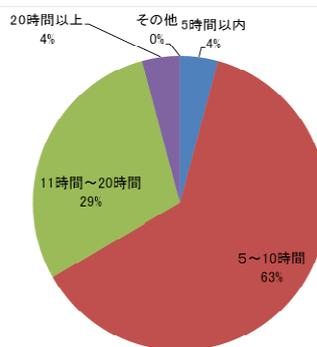


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

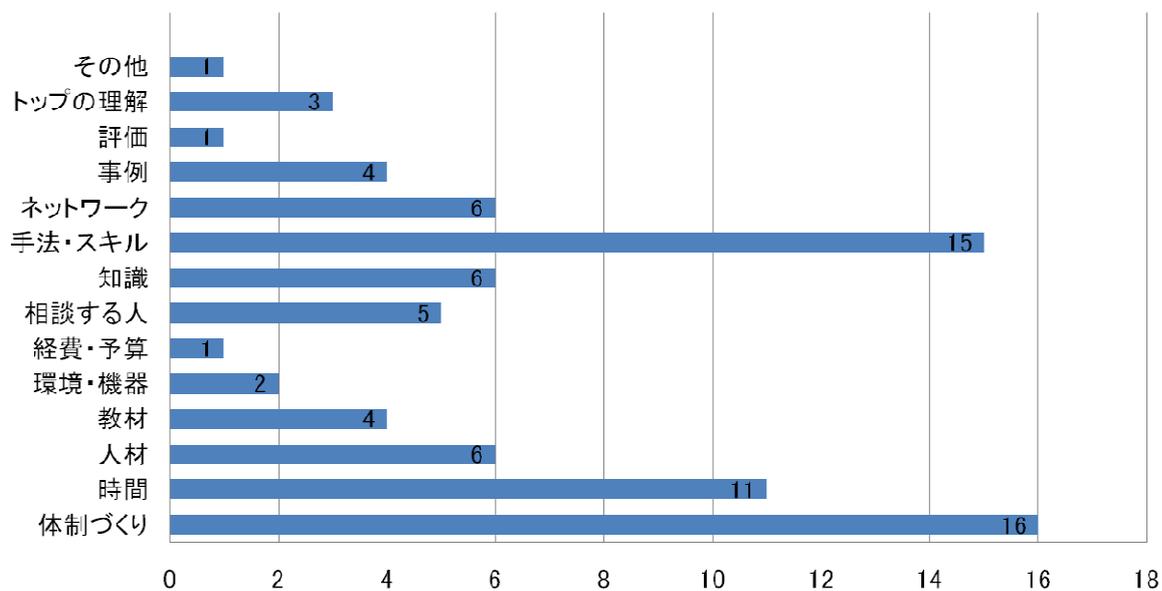


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 札幌（自由記述）

<肯定的評価>

- 教科、学年などによっては、工夫次第で色々なところで活用できる。
- これから自分も実際にやって、失敗も含めて深めていきたい。
- 子供にとって確実に必要な学習だと思った。
- 授業時数が限られているが、時数に合わせて工夫すればできそうだと感じた。
- もう少し準備、理解すれば、プロジェクト学習、できそうです。
- 工夫することによって、よくも悪くできるから。
- 総合導入以来、きちんと確立していなくても、今日はきちんと手法がわかりました。
- 仲間と題材をしっかり選ぶ準備が必要。
- まずは、自分でやってみて、理解してからやってみてほしい！
- とてもわかりやすい解説とWSで私も仕事へ生かしていきたい。何よりも楽しい時間でした！
- 1日があっという間でした。学校や職員団体等で生かせそうに思います。学びのネットワークが増えました。
- この方法は、今の自分にとっても役に立つと思いました。
- ポートフォリオは是非実践してみたいと感じました。授業だけではなく、部活動でも。
- 子供に意志ある学びを！という話、「全くだ！」と思いました。ティーチングの自分を変えたい。
- 今日は大変よい経験をさせていただきました。これからのためになったと思います。
- 本当に刺激的な時間でした。「教師は未来デザイナー」との言葉、いつまでも大切にしたいです。
- 難しいことばかりでした、今日の経験は、必ず今後には生かされると思います。
- 様々な力をつけるために、教師が意図を持ち、コーチングする大切さを感じた。
- ティーチングとコーチングの違いを意識していけないといけないと思いました。
- 「教える」一辺倒になっていました。「未来」を生きる子供たちのためという視点が無かったです。
- オートフォリオ、プロジェクト学習、コーチング、別々だと思っていましたが、全部つながっていました。
- とてもためになりました。ぜひ自分が教員になったら、使いたいです。
- 学校でも活用してみようと思いましたが、まずは自分の人生について課題と目標を決めようと思います。
- 鈴木先生の言葉、1つ1つがかんがえさせられることばかりでした。自分から手を伸ばして学んでいきたいです。
- 実際に子供たちの前に立っている時に、学んできたコーチングが本当に使えているのか？と感じた。

< 課題 >

- 学習を進めていくために、教師も子供も、積み重ね(素地)が必要だと感じたから。
- ポートフォリオは少し難しく、どんな考えを持つのか？自分はまだその考えの軸がない。
- 元々知識がないので、やや難しく感じた。
- 研修を終えたばかりで、具体的な青写真を思い浮かべることができないので、難しい。
- 実際に行っている姿や内容が想像つかない。
- 全ての教科、全ての単元に対応できるとは限らないと感じたから。
- 研修を受けないと、先生は使いこなせないと思う。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆算数

- ・苦手を克服するための、計算力を高めるポートフォリオをつくる。それらから間違えた原因を探り対策を考える

☆国語

- ・自分の考えを、自分の言葉で表現する力
- ・漢字の暗記術について提案するアイデア集作り

：「物語読」編

- ・5年「4年の釘にいどむ」などドキュメントを扱う単元
テーマ「自分がなりたい理想の大人(生き方)をみつけるために！」
ゴール「自分はこの人のこんな生き方にあこがれる！紹介集を作る」

☆音楽

- ・ビジョン・ゴールの表を用いて、子どもひとりひとりの個人の願いを引き出す方法として活用したい。

☆理科：「理科実験」編

- ・各フェーズで身につく力を書く
- ・「どうしてこの実験方法を選んだの？」
- ・「実験から何がわかると思う？」

☆教員研修

- ・今回の研修で数多くのベテラン教師の学校運営の考え方や教員同士の連携の仕方など今まで考えたことのない意見がたくさん出され、このような機会が教員に必要であると強く思った。例えば、指導方法をPCに保存し、教員みんなで共有するシステムや職員室のレイアウトなど。

☆係活動

- ・4年2組がみんなにとって過ごしやすいクラスにするぞ！
「今はどうなの？」「どうなったらいいの？」
「そのためには具体的に何をやるの？」等コーチングを用いて、子どもが自ら考えられるような手だて（促し）をする。

「プロジェクト学習とコーチングポイント」 題材:「成長」

□ 【ビジョン・ゴール】

- T 「成長ってなに？」
- T 「成長について、今していることは？」
- T 「実際のところ、研修にどれくらい行ってる？」
- T 「何が問題？」「何を願っている？」

それぞれの教師にライフステージがあるので、「研修に行けない時期もありますよね。」というようにフォローすることも大事である。

「それぞれのライフステージにあった研修をすればよいのですよね。」と励ましながら、しかし、空間全体としては「そうか。」と、教師も成長し続けるんだというように最初にムードアップすること。

「先生達も学び続けているんだよ。新しい時代だからね。」と子ども達の前でも言えるすてきさ。

「成長について今やっていることは？」「できない事情はなあに？」とか、成長したいけれどもできないという課題発見ができる。「何が問題？」「何を願っている？」「もっとほしいものはなあに？」と言うと、「時間がほしい。」とか「本を書く必要がある。」とか、何よりもこの研修で最も顕著だったのは「教師達が互いに学び合うチャンスが足りていない。」という発言が大変多くあった。このようにして、一人の知を全体の知として共有として沸き上がらせることが大事である。

さらに、「教師の学び合いの方法を提案します。」という提案であったら、コーチは、「いつの？」とか具体的にそのシーンを聞く。日曜日なのか、夜なのか、昼なのか、昼休みなのか。そうすると、あるチームは職員室における学び合いということを挙げた。

そして、結果的には、学び合いしやすい職員室のレイアウトを変えるという提案をしてくれた。提案も「職員室で学び合えるような職員室の改造方法を提案します！」という〇〇チームの提案となった次第である。(つまり、真ん中に座れる場所と、授業案がすぐにファイリングとして取れるとか(注で入れる。))

□ 【情報リサーチ】

- T 「今ここにいる人にもアンケート取れるんじゃないの？」
- T 「今使える手段はなあに？」
- T 「いつするの？」

ここでは、ワークショップゆえに、具体的には広域的なアンケートなどはできない。しかし、参加者が教師であって、この札幌における提案は「教師が作る、教師のための、教師が成長し続けるためのアイデア集を作る」であるので、この場で教師達は、声を出し合ってアンケートやインタビューを仕合った次第である。そういうことをコーチが促したのである。「今ここにいる人にもアンケート取れるんじゃないの？」というように。教員研修であっても、ラフなアイデアをコーチやファシリテーターが出し合い協力する事が大切である。つまり「今使える手段はなあに？」ということである。

そうするとこの場が教師だけなので学習者たちは、「端からインタビューする。」「アンケートで挙手してもらおう。」というような計計画を口にしてくれた。

そして、すぐに情報リサーチのフェーズということで、早速に情報リサーチが始まった。

そこで、コーチは「いつするの？」と聞くと、「すぐする。」「今、する。」というように、教師たちは、いつまでも時間がないからこそ、教育に必要な瞬発力とか、スピード感の必要性を感じる。

とりあえずじゃなくて「今、する。」と言った瞬間に、〇〇チームは「先生方、5時間以上睡眠とっている人手を挙げてください。」と質問をした。(ほとんど手が挙がらず、手を挙げた人はぼつり、ぼつりであった。)

これでもう、80%の人が眠れていない、というエビデンスがこの場で取れた。つまり、教員研修の相手が教師故に、そしてターゲットが教師故に、このエビデンスをこの瞬間に得ることができたのである。

《ワークショップ全体の流れ》

第3回 教員研修（ワークショップ）愛媛会場

■ 日時： 2011年1月7日（金）10：00～16：30 西条市中央公民館

■ 題材：「豪雨」

■ 参加者：一般教員57名（小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名）

講義	10：00 あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰 新しい教科書と読解力	 
ワークショップ1	10：30 全体の目的：ビジョン 意志ある<チームづくり> 11：00 チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築） 13：30 プレゼテーション（評価：付箋）	
講義	14：30 コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA型学力・言語活動を充実させるコーチング手法	
ワークショップ2	15：30 子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活かし方を考え出す。 アイデア共有 （参照 WS2成果）	
	16：20 アンケート 16：30 終了	

題 材：『集中豪雨』

目 的(ビジョン)：教師として子どもを守るために

目 標(ゴール)：教師が作る 教師のための
「 かつてない豪雨 その時 こうする!! 行動提案集 」を作る。

〈チームづくり〉のカテゴリー

職 員 室

プ ー ル 指 導

家 庭 訪 問

教室・生徒指導中

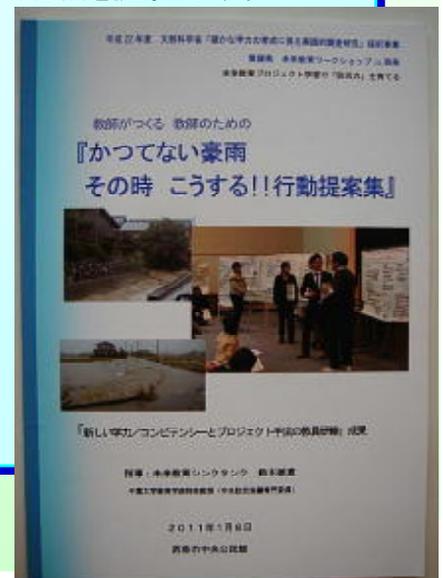
部活指導（校内）

部活指導（校外）

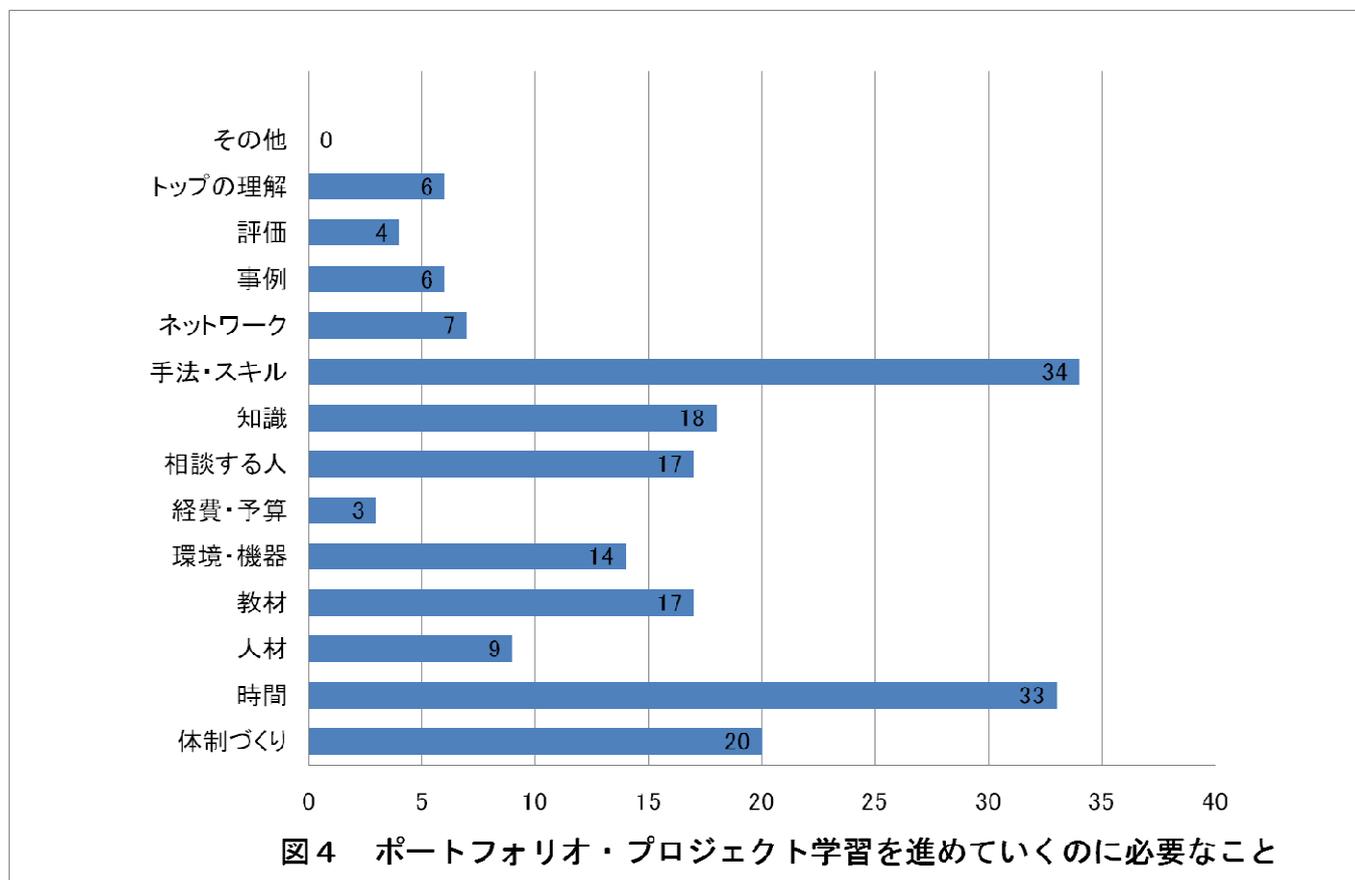
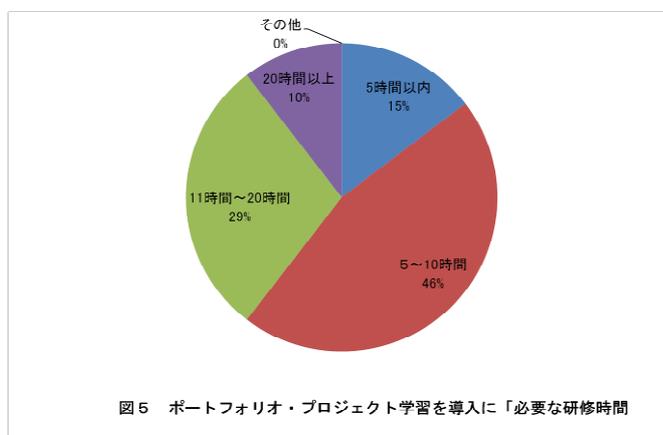
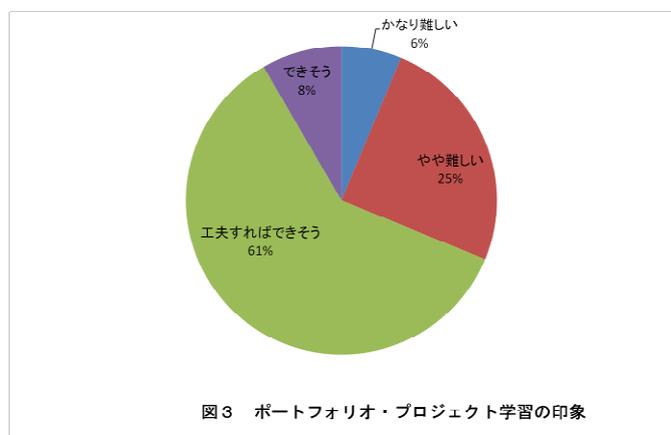
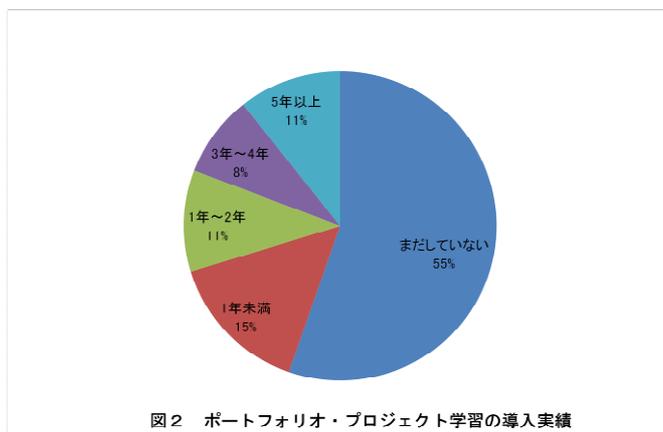
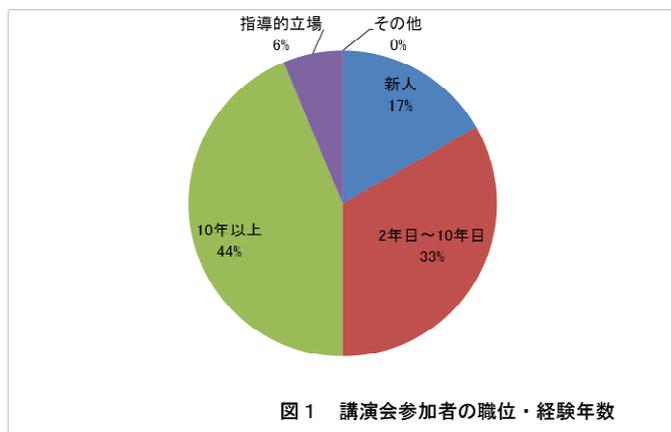
社 会 見 学

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 職員室にいる教職員10人が、組織的に動く方法を提案します。
- 2 職員室に教職員が3人のときの、初期対応の方法を提案します。
- 3 選手選考の日のプール指導を、集中豪雨のためやめるタイミングを提案します。
- 4 プールから校舎に安全に素早く避難する方法を提案します。
～ 小学4年～6年 60人、指導者 3人 ～
- 5 ひうち体育館で練習中のバスケ部女子20人、指導者2人の安全を確保するための方法を提案します。
- 6 部員40人の部活で生徒の安全を確保する方法を提案します。
— 中学1・2年生 美術部の場合 —
- 7 教室で生徒指導中の生徒の保護者と連絡が取れない場合の方法を提案します。
～ 児童 6年生 女子2人 単身家庭 ～
- 9 一人で家庭訪問移動中、下校中の2人10人が立ち往生しているときの教師の行動を提案します。
- 9 社会見学で松山駅から無事帰る方法を提案します。
～ 小学5年生 40名 特別支援学級2名 校長, 担任2名 ～



ワークショップ手法による教員研修 in 愛媛 参加者へのアンケート結果



ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 愛媛（自由記述）

<肯定的評価>

- ・自分なりに納得して工夫すれば使えそうに思う。
- ・テキストなど分かりやすく、授業で使えそう。
- ・コーチングの言葉かけに慣れること
- ・一人一人の児童にあった解決方法を見つけ、情報の収集、目標に向けてたどりつくことが難しい。最初の目標に達成することが資料の寄せ集めになってしまいがちで、そこから思考して自分の考えをまとめていくのが難しい。
- ・各学年や実態に応じて、改善すべき点があるため
- ・現在行っている活動と全く違うことではないから。
- ・情報集めができることが前提だから。
- ・自分自身がコーチング手法などを習得しないといけないから。
- ・自転車操業になってしまっている自分の状況をまず改善しないと取りかかれないため。
- ・全員の生徒に興味をもたせることが難しそう。
- ・全てを最初からきっちりするのは難しそうだけれど、授業や活動の中に少しずつは取り入れていけそうと思った。
- ・子どもたちが目標を立てること、その目線に合った資料を集めることが難しいから。
- ・全体をいつもいつも意識はできないかもしれませんが、今日はここ！ノット安元ではこれこれ！と考えると、取り組めそうです。
- ・今までのやり方をより効果的により整理していきたい。
- ・声かけなど難しいなとあとと思ったけど、シート集を見ていると、それに沿ってできそうだった。
- ・自分がしっかり熟知できていないと思うから。
- ・自分がまだ十分理解できていない。
- ・初めてのことが多いので、難しく感じるが、続けていけば、どんどん理解できると思う。
- ・価値が理解できれば教職員は動くと思うから
- ・シートが活用できそう。

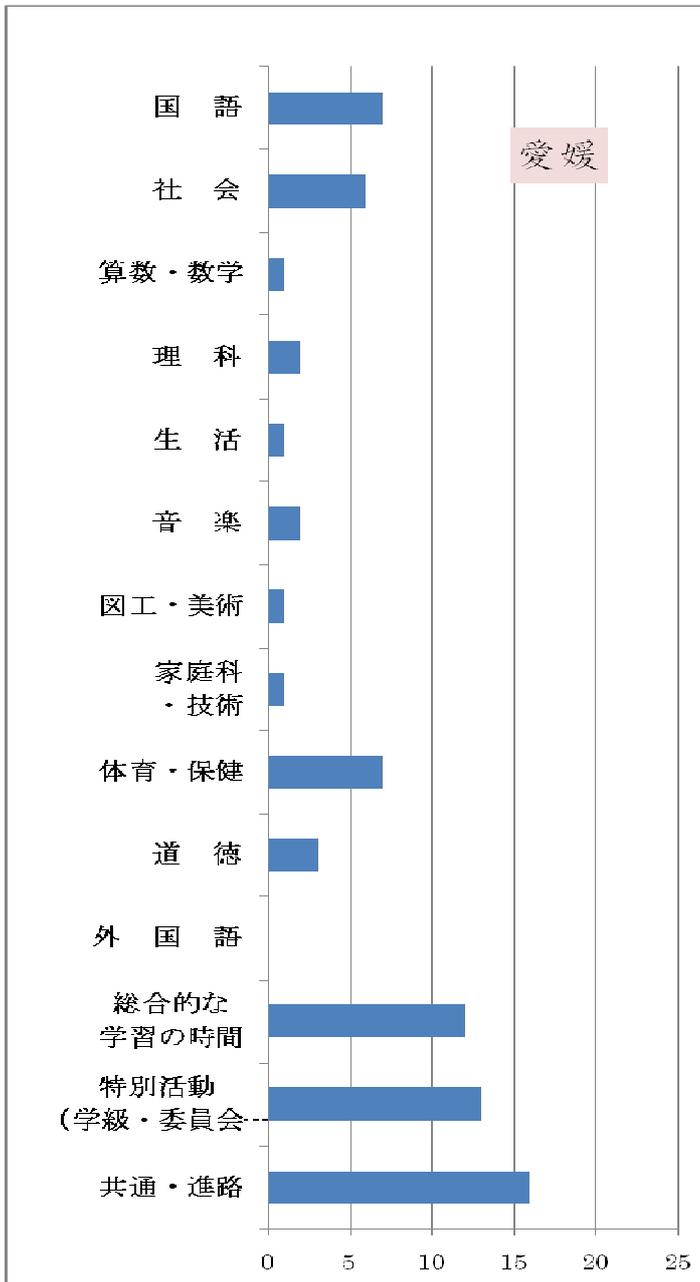
< 課 題 >

- ・子どもの自発的な活動への適切な指示
- ・子どもの興味関心を持続させること、情報を取捨選択し、内容を深めさせることが難しい。
- ・プロジェクト学習、学習意欲の持ち方に個人差がある。意欲があまりない生徒にどのように組みませるかが重要である。
- ・児童に個人差があるので、全員に理解させるために、教員がプロジェクト学習について、もっとも理解しておかないといけない。
- ・まず自分が授業構築していくためにポートフォリオを活用してから。
- ・教師自身（自分自身）がよく理解できていない。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆算数

- ・面積の学習で公式を導き出す方法を子どもたちに考えさせる。

☆社会科

- ・「よりよい図書館」について、調べ、考え、改善案を提案する
- ・福祉について考える:「どうしたらいい?」知っていること、「どうしたらわかる?」、調べる、話し合う
- ・授業の中で考える時間の時。

☆体育

- ・チーム分け:課題を見つけ、改善策を考え、できる能力につなげる。
- ・持久走:与えられた練習をこなすだけでなく、「どうすれば自分の記録が伸びるのか」を考え、主体的な活動に変えていく。

☆技術・家庭科

- ・生活改善:調べ、課題を見つける

☆道徳:「いじめの問題の解決方法についてのワークショップ」編

- ・資料で場面設定をする
- ・資料を読む
- ・グループごとでその解決の方法を話し合う

☆図工:「ランチはヘルメットをかぶって鑑賞」編

- ・先に影の部分だけを隠しておいて、スプーンやフォークに部分から影がどんな形になるか、想像して書かせる時に使う

☆音楽:「合唱指導」編

- ・「どんな歌い方がいいと思う?」
- ・現状把握(現時点の課題)を知り、目標(ゴール)の意識の流れをはっきりさせる。

☆国語

- ・漢字を覚えることが苦手な子に対して。
- ・国語の読み取りにおいて、「テーマ」「話し合い」

☆総合

- ・「計画」:「使える時間は全部で何時間あるの?」——見通しを持って計画を立てる
- ・「情報収集」:「情報をどうやって手に入れるの?」——情報や知識の獲得
- ・「制作」:「一番伝えたいことは何?」

「プロジェクト学習と基本コーチング」 題材：集中豪雨

□ 【ビジョン・ゴール】

T「今はどうなの？」

T「この土地の災害の記憶は？」

T「災害ってなに？」「集中豪雨ってなに？」

T「どこに社会見学に行っているの？」「最も危険な場所に焦点を。」

今回、会場においては、西条市の防災対策課の協力により情報リサーチコーナー(写真を添える)に、集中豪雨という新しい災害をあつかったので、その災害のエビデンスを、ワークショップの環境の中に学習者の目に入るようにパネル展示もした。また、過去の災害の状況の冊子も添えるなどして、データをより濃厚に揃えるということが大きな特徴となったワークショップだった。

「今はどうなの？」と問いかけると、参加者の目がパネルに いて「いやあ、ひどかったんですよ。」と過去を思い出し、非常にモチベーションが上がる。学校で行う時も、同じようにすることが有効なんだと教師が気づくように「学校でもこのような学習環境で行いましょう。」とはっきり言う。コーチは促すだけでなく、必要なことは的確に伝える事が必要である。「災害ってなあに？」「集中豪雨ってなあに？」というように、災害においては、このワークショップで使う言葉の定義をはっきりする必要がある。教師達は、災害時にはリーダーでもあるわけなので、より災害の専門用語の定義について、資料を指し示しながら共通認識をはかる必要がある。

社会見学で町に出かける時、「どこに社会見学に行っているの？」

「最も危険な場所は？」と言う。そうすると「駅前で、電車が止まって、人があふれている。」というような状況が出てくる。このように、最もゴールの高い、ゴール達成に工夫のいるもの、提案する必然性があるものになるようにコーチは促す。これにより、ビジョンとゴールが明確に決まっていくことになる。

□ 【情報リサーチ】

T「この膝まで水が来たら？」「車に乗っている時に窓の3分の2まで水が来たら？」

T「どこからどこまで？」「範囲がわかるためにはどういう手段で示したらいいの？」

数字や固有名詞が出るように「河の側は危ない。」ではなく、「加茂川何とか地区のこの範囲」というように、この地図に印をつけるとか。ここで、会場のハザードマップが活きるようなコーチングをする。

また、「どこからどこまで？」「範囲がわかるためにはどういう手段で示したらいいの？」というようにコーチはそのリスクが最も示せるための方法を促す事が有効である。そのことによりクリアな思考や解決策となる。

□【制 作】

T「それを見て傷つく人はいませんか？」

制作の時にはコーチは、「それを見て傷つく人はいませんか？」と言う。例えば災害に遭った人の悲しんでいる顔がアップだとかいうのはやめて、事実を淡々と端的に伝えることが大事だということを伝える。

□【プレゼンテーション】

T「最も困る場面にどうしたらいいのかがわかるプレゼンテーションをお願いします。」

このコーチングによって、あるチームは多動性の児童がいる時の避難の誘導を寸劇でプレゼンテーションした。非常に役に立つプレゼントになった。



第4回 教員研修（ワークショップ）福岡会場

■ 日時： 2011年1月22日（土）10:00～16:30 福岡市立愛宕小学校

■ 題材:「話し合い」

■ 参加者:一般教員40名(小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名)

講 義	10:00	<p>あいさつ 味来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>		
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	10:45	<p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p>		
11:45		制作（知の再構築）		
14:30		プレゼテーション(評価：付箋)		
講 義	15:30	<p>PISA 型学力（コンピテンシー）育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） プロジェクト学習・コーチング</p>		
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	16:00	<p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>アイデア共有 （参照 WS 2 成果）</p>		
	16:20	アンケート		
	16:30	終了		

題 材：『話し合い』

目 的(ビジョン)：他者と学び合ってお互いに成長したい！

目 標(ゴール)：「こうすれば子どもたちの話し合いが活発になる！アイデア集」
を作る。
ー学習の中で活用力を伸ばすためにー

<チームづくり>のカテゴリー

○ 相 互 評 価

○ ペ ア 学 習

○ 友 達 ・ 失 敗

○ 発 表 ・ プ レ ゼ ン

○ グループ・話し合い

○ ク ラ ス ・ 決 定

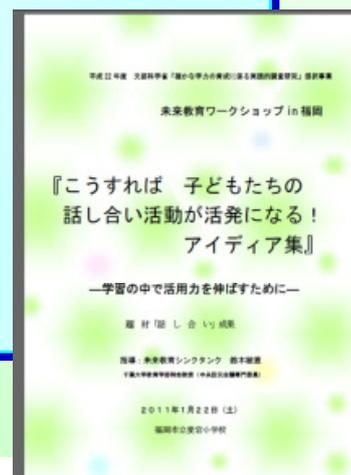
○ グループ・活動

○ 気になる子・関わり方

<チームテーマ 一覧>

- 1 課題発見で子どもが活発に発言する方法を提案します。
～教師主体になりがちな総合の環境領域の単元で～
- 2 むちゃくちゃ楽しいお楽しみ会の計画をつくる話し合いを活発にする方法を提案します！
- 3 新聞を作る場面で全員がひとりひとり」活躍できる役割を決められる話し合いの方法を提案します。
～小学校6年生 修学旅行の良さを5年生に伝える～
- 4 いじめをなくすアイデアが活発に出る話し合いの方法を提案します！
- 5 漠然とほめて終わらない相互評価の話し合い活動を提案します！
～図工の鑑賞～
- 6 特別な支援が必要な子も参加できる話し合いの方法を提案します！
(国語の時間、自分の意見を言えるように)
～思いはあるが参加できない子のために～

WS 1 の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 福岡 参加者へのアンケート結果

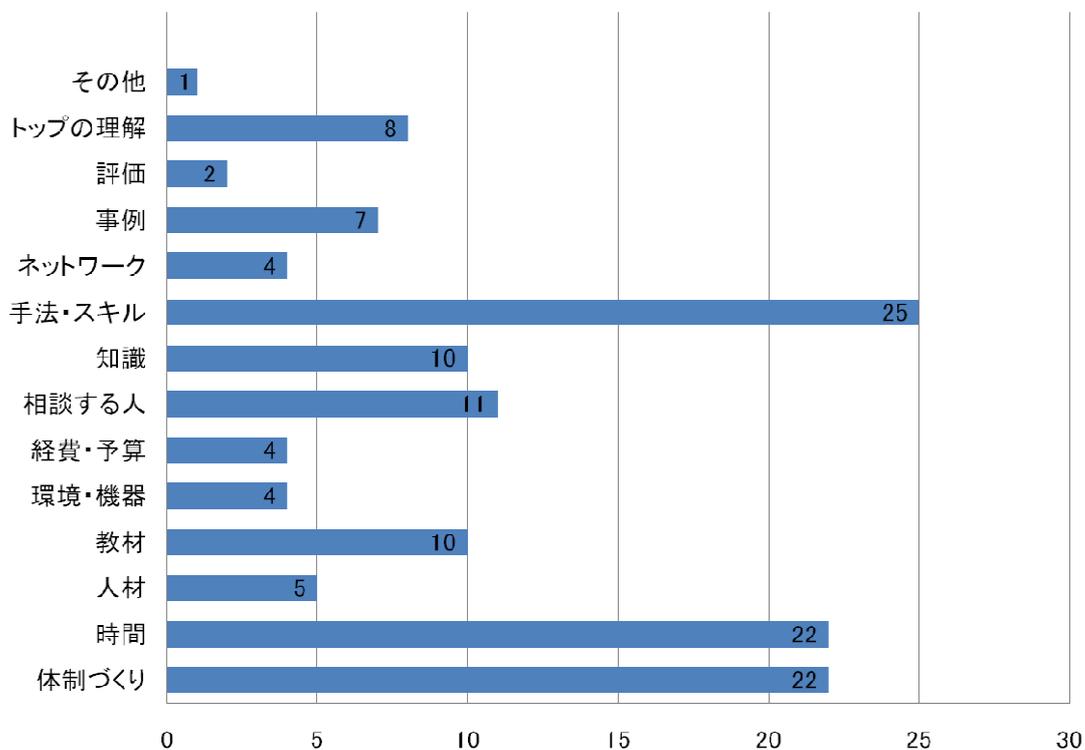
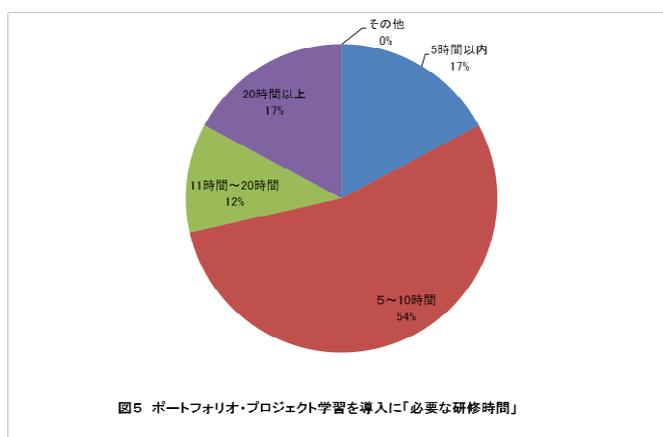
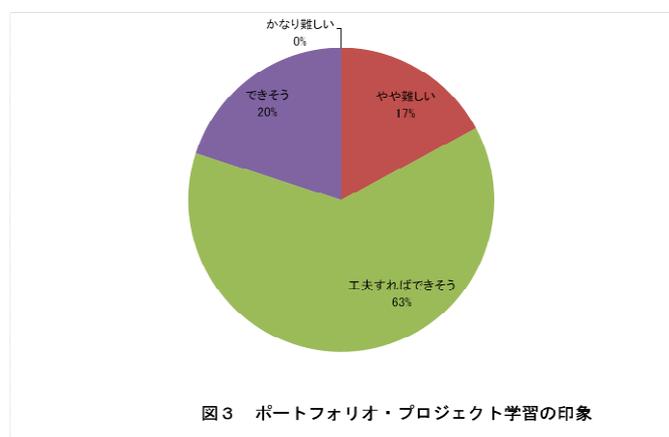
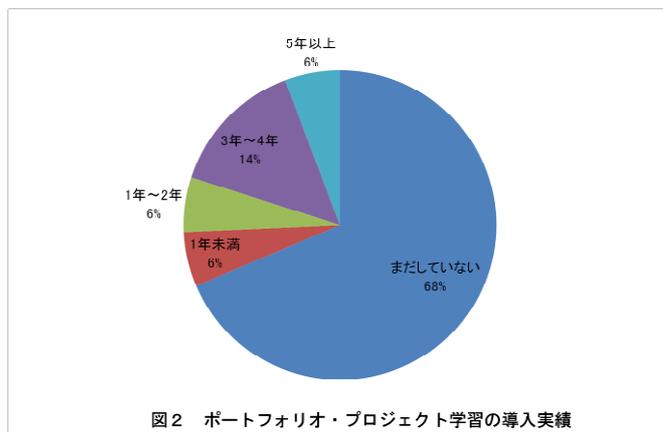
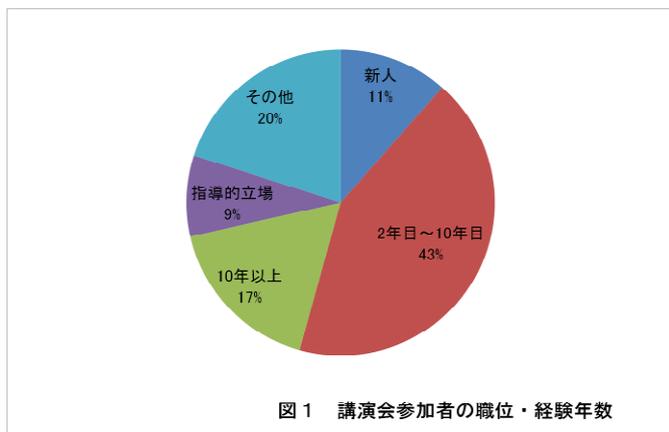


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 福岡（自由記述）

<肯定的評価>

- 子どもにしっかり考えさせる時間やコーチングを学んでいけば、取り組みそう。
- とにかくやってみて、失敗をしても、工夫改善をしていけばよいと思った。
- クラスを持つようになると活用する機会は増えそうだが、今の自分が授業に取り入れるにはもっと工夫が必要だと思った。
- どの時間を使ってするかなど計画をしっかり立てればできそう。
- 普段の学習や学級経営に活かそうだから
- 発達段階を考えながら、継続的に取り組んで行く必要がある。
- 思ったよりも簡単で、分かりやすそうだから。
- 教師もチームを組まなければならないので、他の教師を説得できればできそう。
- 担任ではないが、ヒントになった。
- とてもおもしろいし、子ども達の成長が期待できる。
- 今まではどうすれば効果的なのか全く分からなかったが、今回教えてもらったのでやってみたい。
- 総合学習では、課題設定が重視される。見通しを持って取り組むことや自分の学びを客観的にながめることは何よりも大切
- まず、教師が使い方をよく理解する、学習の段階で必ず活用することで有効につかえると思う。
- 子どもがいきいきと活動する姿が想像できそう。今回ていねいに教えてもらったから。
- 実際に試してみたら、そこから自分なりに理解していけそう。
- 今回やり方を知ったばかりなので、自分なりに学級の実態に合ったやり方に落とししていきたい。
- シート集があるのでできそうに思う。
- 自分自身がしっかり頭に入れたらできそう。
- 以前参加した研修を参考に実践したことがあるから。
- まだやってみたことがないので、分からないが、とりあえず手順通りにやってみたい。
- 教師が生徒の成長という明確なゴールを持って、ワクワクしながら取り組める内容なので、生徒もワクワクしながら取り組めると思う。
- ていねいな解説書の通りにするとうまくいくと思うから。
- 鈴木先生に細かくていねいに講義してもらったから。
- ロジックがはっきりしていて、誰にも理解できると思う。
- これから教師になるので、実際にできるかどうかイメージがわからないが、挑戦してみようと思います！
- 今回初めだったが、鈴木先生の指導が分かりやすく理解できた。目的・目標の明確化や教師のコーチングは難しそうだが、しっかり工夫すればできると思う。

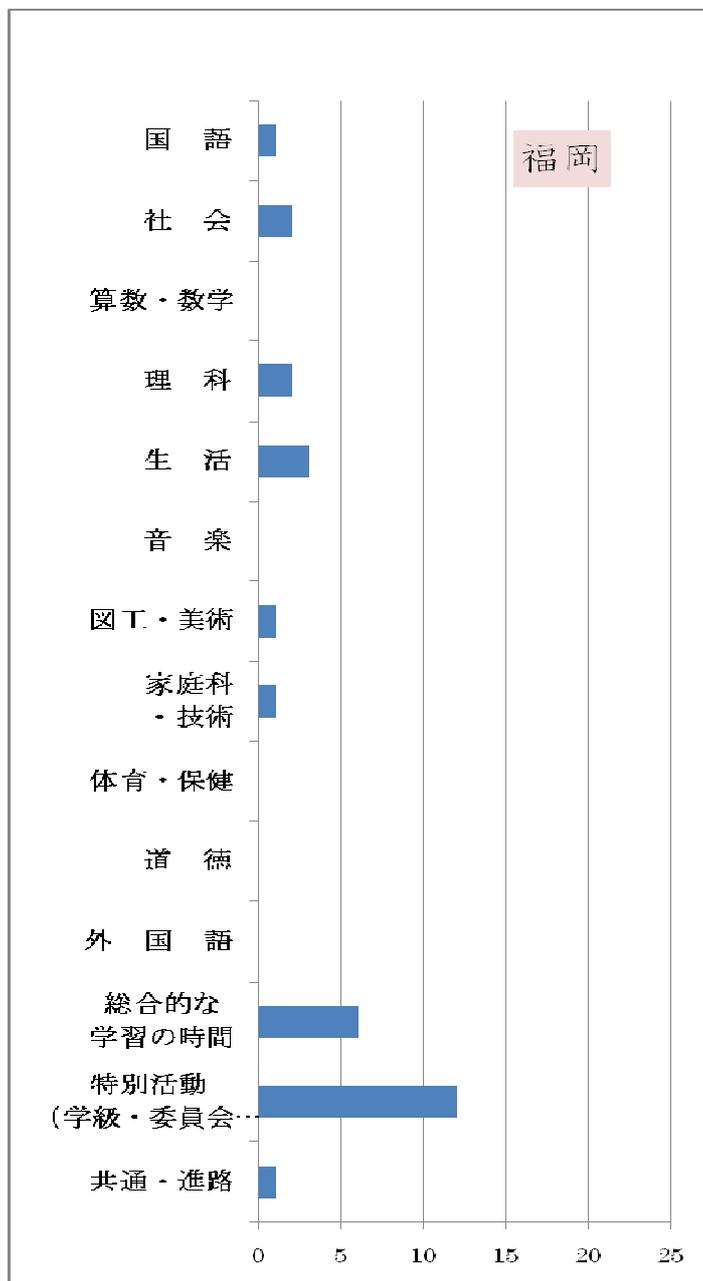
< 課題 >

- 言葉で深めていくことが大切だが、子ども達には難しい気もした。でもやってみます！
- 自分で考える子どもを育成するということの大切さを感じながら、日々の忙しさの中では準備等ができそうにない気がする。
- まだやったことがないので、その場で応用できるか等考えたら難しいと思う。
- その場での対応がすぐにできるか不安に思い、もっと自分の中に落とし込みたい。
- まだポートフォリオに関する学習を深める必要性を感じた。
- 自分自身が行ったり、つくったりしないと（体験）、すぐに使うのは難しい。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆理科：「実験観察」編

- ・何が必要か、何をすべきか、生徒児童が目的、目標を明確にするために使える

：「生き物のくらしと環境」編

- ・本単元は「小学校理科すべてのまとめのような学習」であり、ここで、自分が6年間の学習で分かった・学んだこと・ついた力・できるようになったことを思い出し、まとめていきたい

☆技術・家庭科

- ・情報化社会を生き抜いていくためのガイドブックを子どもたちにつくらせたい

☆社会科

- ・社会科で課題を解決するときに「どうしたら、わかると思う」と声掛けして、子どもの口から言わせる

☆図工

- ・図工の鑑賞の授業で、漠然と褒めて終わらず、相互評価の七試合を取り入れていく

☆国語・社会・総合

- ・「ねがいをもって、目標を設定し、活動できるために。コーチングの手法を使用する」
：子ども自身が方法やゴールを考え、自分で目標を設定できる。その結果、自発的に活動する＝知識の活用・応用につながる

□ 【ビジョン・ゴール】

- T「話し合ってるに？」「話し合ってるっていったらどんなシーンが浮かぶ？」
T「一番子ども達の話し合いが盛り上がりにくいシーンは？」

コーチは、「皆さんの意見で決めた題材です。あらためて、話し合ってるに？」「話し合ってるっていったらどんなシーンが浮かぶ？」など話し合いを意識するようなことをいう。

この会場である愛宕小学校は、図画工作の研究が進んでいる学校である。そのため、教師によっては「作品評価の話し合い。」という意見が出る。「鑑賞の際に子ども達の意見として「きれい。」とか浅い意見が出やすい。だから、「この話し合い活動を活発にさせたい。」といった積極的な意見が他の会場以上に活発に出た。それは、今回の言語活動ということのリンクとこの学校の特色が活きたというプログラムの特徴だったからと考察する。

コーチングとしては、「作品鑑賞で話し合いが活発になるための方法を提案します。」という提案に対して、コーチは「何の作品？」「子ども達の絵！」「音楽」など、チーム故に、音楽とか写生の絵に対して複数の教科がイメージされてしまうことがある。そのような場合には、「一番子ども達の話し合いが盛り上がりにくいのは、どっち？」といった絞るためのコーチングをする。そうすると「やっぱり絵かなあ。」という意見が出てくる。その結果、そのチームは「子ども達が描いた写生の絵のよさについて、話し合いを促せる方法を提案します！」というテーマになった。目標は具体的で焦点がぼれていることが肝心。

□ 【計 画】

T「どこでそう思ったの？」「いいところどこですか？」

T「どうしてそうわかったの(思ったの)？指さしてみて。」

T「ここか。ここが具体的にはどうなの？」

T「本当の画家の人たちは細かいというのはどう書いているのだろう？」

T「盛り上がるってなあに？」

T「それはどんなイメージ？」「どんな意味？」「どんなニュアンス？」

A君「私の作品のよかったところ言ってください。」

B君「きれいです。」

で終わってはいけない。

T「どこでそう思ったの？」

B君「だって、全体的に色使いがきれい！」

というように、具体的に「どこが？」とか「どうして？」ということが子ども達の口から出るような、言いたくなるようなさわやかな突っ込みをすることが大切である。

あるいは、

T「いいところどこですか？」

B君「ていねい。」

T「どうしてそうわかったの(思ったの)？指さしてみて。」(言語がうまく言えない子には指さしなどの行動で示させる。)

そうすると、石垣を指さした。

T「ここか。ここが具体的にはどうなの？」

B君「石垣の石が陰で凹凸が違って見える。」

T「すごい！細かなことに気づいたね！」

このように全体の前でB君が言ってくれることによって、そこまで見るのかというような促しを全体の子ども達に理解させる。

情報リサーチの時には、例えば「ゴッホとかが点画で書いていますよね。本当の画家の人たちは細かく、どう描いているのだろう？」とか、「クラス中の話し合いが盛り上がる。」と言うことには「盛り上がるってなあに？」というようにコーチングをする。「盛り上がるというのは一部の人が話し合いをするのではなくて、ふだんあまり話さない人も話せること。」というように具体的に促す。つまり、盛り上がるといった曖昧表現とか修飾語があった場合に、研修会のコーチは「それはどんなイメージ？」「どんな意味？」「どんなニュアンス？」というようにして、その人の中に持っている概念や言いたいことを具体的に言ってもらえるように促すことが重要である。

この時点で、もう、教師の中には授業のシーンが浮かんでいる。「ごんぎつねの気持ちについて話し合おう。」などのように。

その時に、「教科書のこのシーンが・・・」という具体的なことがあれば、尚有効である。

《ワークショップの全体の流れ》

第5回 教員研修（ワークショップ）山口会場

- 日時： 2011年2月6日（日）9：30～16：00 岩国市立麻里布小学校
- 題材： 「コミュニケーション力・理解」
- 参加者： 一般教員24名（小学校24名、中学校 0名、特別支援 0名、その他 0名）

講 義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造..俯瞰 思考と表現と行動</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	<p>10：30</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>11：00</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p> <p>13：30</p> <p>プレゼテーション（評価：付箋）</p>	
講 義	<p>14：30</p> <p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書）</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	<p>15：30</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>アイデア共有</p>	
	<p>15：50</p> <p>アンケート</p> <p>16：00</p> <p>終了</p>	

題 材：コミュニケーション力・理解

目 的(ビジョン)：子どもたちがコミュニケーション力を身につけてほしい！

目 標(ゴール)：こうすれば子どもたちのコミュニケーション力が高まる実践活用集
を作る！
～”理解してほしい””理解したい”という視点で～

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇グループ学習・活動

◇ペア学習

◇気になる子との関わり方

◇グループ学習・話し合い

◇相互評価(作品・評価)

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 調べたことをまとめる前にグループ全員が意見を出し合う工夫を提案します！
～5年生の社会科見学(自動車工場)後～
- 2 互いに意見を活発に出し合うペア学習の方法を提案します！
～4年国語「ごんぎつね」のケース～
- 3 ”一人思いのままに行動してしまう子”にクラスの他の子が肯定的にかかわるための工夫を提案します！
～みんなが静かに考えないといけない時に～
- 4 一人一人が遠慮なくグループで発言するための方法を提案します！
～3年国語「サーカスのライオン」～
- 5 作品のよさを根拠をもとに語り合うようになる方法を提案します！
～高学年絵画鑑賞～

これが研修の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 山口 参加者へのアンケート結果

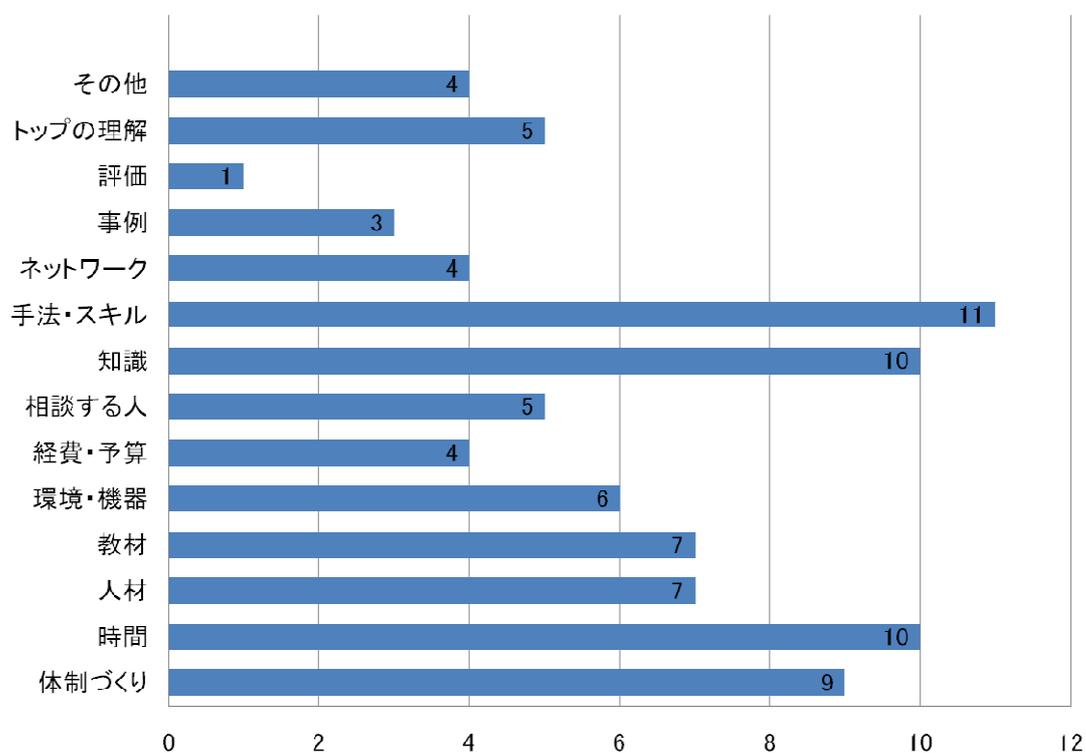
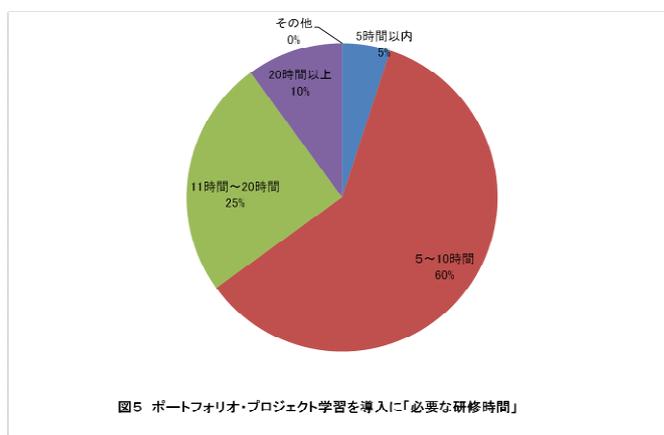
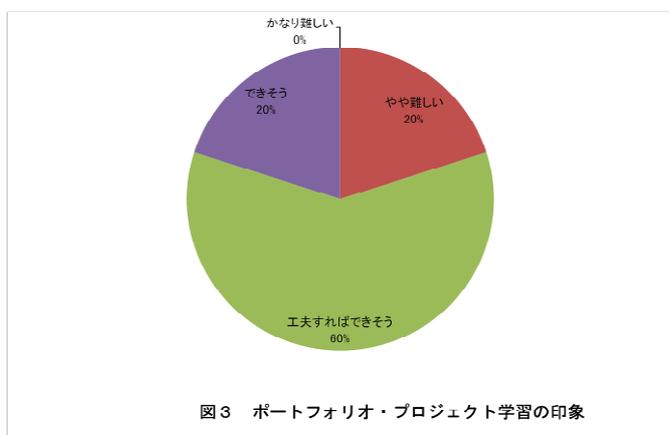
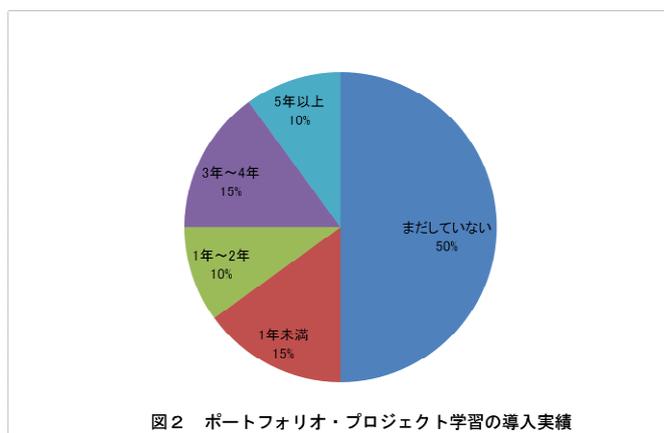
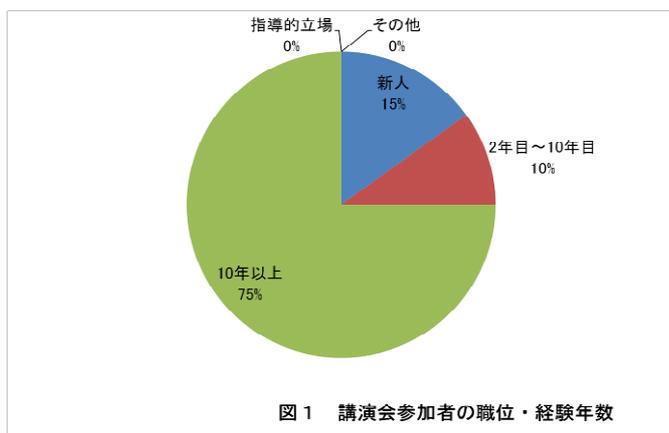


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 山口（自由記述）

<肯定的評価>

- 知識が浅いので、まだ自信がないが、とても興味深く価値を感じるのでやってみたい。
- 全体でなくグループ、個人で活動していく必要があるから。
- 手続き、ステップが複雑な印層を受けた。自分自身が分かった気にはなっているがまだよく意図を理解していない。
- 今日学んだことや冊子にくわしく書いてあるので手順に添ってやるとできるできそうであるが、難しそうなので詳しい人に聞くなどして、進められる。
- ポートフォリオシート集を使えば、手順通りに進められるから。
- 今回かなりの情報をいただき、そのよさを実感できたから
- みんなで生活していく上でいろいろな課題や問題をもって実際に解決していると思う。それを解決していいけるものがポートフォリオだと思う。
- 低学年を担当することが多いが、小さいときから自己決定し、自分の意志や学ぶ意欲や力を持たせることが大切だと考えているから
- こうすればよいという手だてが順に示してあるから
- 生かし切れていなかった。形だけのものになっているように思った。そのような工夫をすればいいか分からなかったので止まっていた。

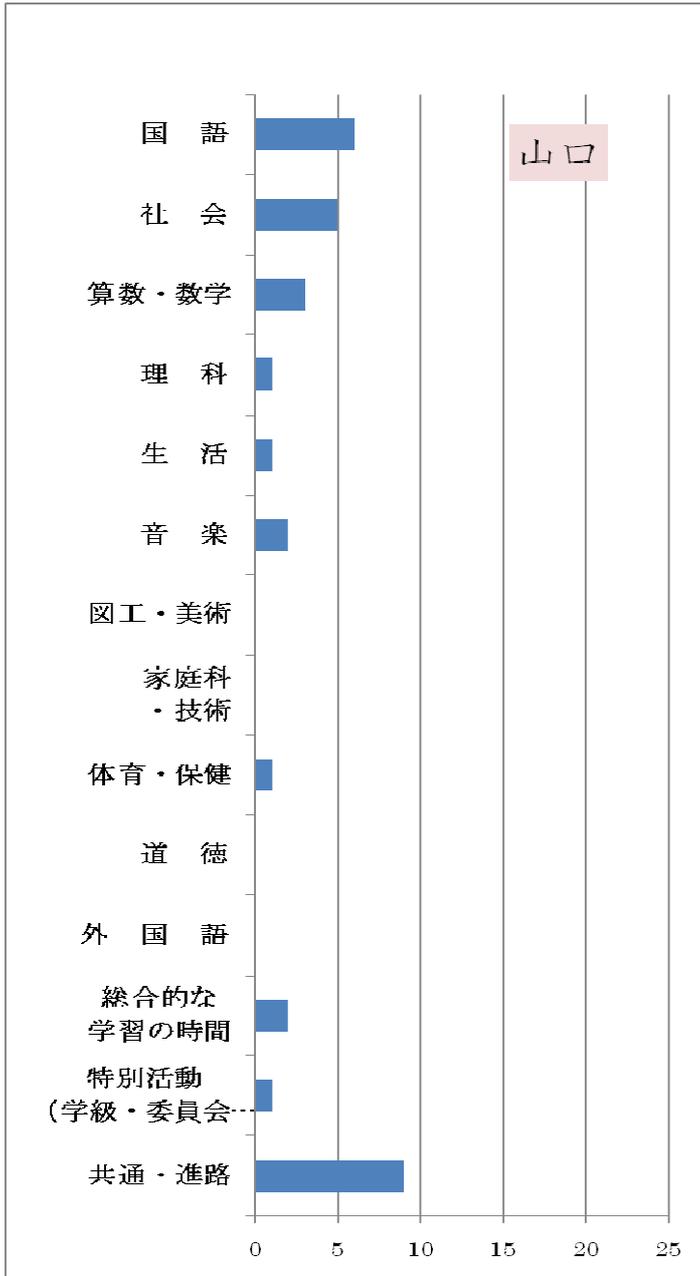
< 課 題 >

- まだ実践したことがないので、やってみないと分からないから。
- 全体でなくグループ、個人で活動していく必要があるから。
- 手続き、ステップが複雑な印層を受けた。自分自身が分かった気にはなっているがまだよく意図を理解していない。
- もっと詳しく知らないと・・・思う。
- まだ実践したことがないので、やってみないと分からないから。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について

□ 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆社会科

・社会科の調べ学習で情報の集め方、資料のとらえ方で活用できそう。

・社会科で題材を提示して

- ①はてな？を見つけようとなげかける。
- ②どうやって調べたらいいかな？ときく。
- ③調べたことをファイルに入れようと提案する。
- ④その資料を床に並べる。
- ⑤ポートフォリオを取り入れながら、プレゼンの場をつくってみたい。

☆生活科

・気づきを発言させる際のコーチングを実践したい。

☆音楽

・歌い方や演奏の仕方にコーチングを用いたい。

☆国語

・国語の読み取りで「このような活動によってみんなにどんな力がつくと思う？」のような問いかけをする。そうすることで目的意識が高まると思う。

☆総合

・総合学習で地域の歴史を調べて発表(ただ何となく、毎年やって発表しているが、何を伝えたいかわからない)
→目標をはっきりときめて、目的を持って明確化させて取り組めるようにコーチングしていく。

☆生徒指導

・生徒指導で、子どもに叱るばかり指示するばかりではなく、どう行動すればよいか自分のためになるかと伝え、考えさせたい。

□【ビジョン・ゴール】

T「コミュニケーションってなんだろう？」

T「よく見るって何？」「ちゃんと聞くとは何？」（←しばしば教師は言いがち）

T「理解するために聞くには、あなたはどんな質問を相手にしたらいいの？」

「理解するためには、どんな言葉をキーワードとして聞いたらいいの？」

子ども達が振る舞いも含めてコミュニケーションが活発になるということは、相手を理解したいという行為の結果とも言える。

さわやかなお節介をしあったりとか、力になり合ったりとかいうように、「私の考えはこうなんです。」といった、自分の考えや自分のしていることをわかりやすく理解してもらうための、自分自身の総合コミュニケーション力である。つまり、プレゼンテーション能力とか表現力というのはコミュニケーション力そのものである。

言語活動について、言語のスキルだけでなく子ども達の情感を高めよう、あるいは感性を高めようということが、新しい学習指導要領の中でも非常に高く謳われている。

つまり、理解したいというモチベーションや情感があつてこそ子ども達はシャープな聞き方になる。つまり、知性と感性である。能動性と手法を高められるようなコーチングを獲得する必要があるのである。だから、ここでは「理解し得るコミュニケーションを題材」とした。ここでも、話し合いということは、題材として上がったが、話し合うとは理解しあうことなので、よりシャープな題材となった。

□【プレゼンテーション】

T「誰と誰のペア？」「そのペア、どうつくるの？」

T「どうしたら最もわかりやすいプレゼンになるの？」

例えば、あるチームは「ペア学習の時にお互いを理解し合え、活発に話し合うための教師の促し方を提案します。」ペア活動とかグループ活動とか、クラス全体とかによって、全部コミュニケーションの手段や方法は変わってくる。以下の提案に見られるように（模造紙を貼るイラストがある）具体的な提案となるためには、ペア作りならば、「誰と誰のペア？」「そのペア、どう作るの？」というようなコーチングWPする。

例えば、国語の「ごんぎつね」を学習する場合、主人公が悲しいとかうれしいとか二手に分かれる場面がある。この場面でどうペアを作るかということ、教師がマルチテキストで図に書いて説明した。この違うもの同士でペアを組んでみる。このことによってペア活動が、ひとつのものを捉えながら真反対の人間がペアを組むことにより、お互いを理解してもらおうと思って潤沢な言語を使う。言語活動を駆使する。

このことによって自分の言語活動のボキャブラリが増えたことがある。あるいは気持ちを言い表したいという意欲があるからこそ、言語が多岐に渡る表現をすることができる。つまり表現力の工夫である。表現力の工夫の前に、自分の思いや思考を伝えたいという思考力と表現力を一体とするということ、このワークショップのプログラムの大きな特徴である。

そのようなワークショップとなるために「ペアって誰と誰のペア？」というように、コーチは具体的に言う。「どうしたら最もわかりやすいプレゼンになるの？」というようなことを言うことで有効な展開となった。

ここも、前回の福岡会場同様、言語活動とか、教師が日常ですぐ使えるコーチングであったこと、あと人数が25人ということ、そしてプロジェクト学習のコアである「意志ある学び」の大切さを会場校の教師から伝えている者たちが、チームづくりの時に各チームに入っていたので、チームの話し合いが非常にスマートにできた。そして、他の会場よりも短い時間での研修を可能とした。さらには、短い時間の研修であるにもかかわらず非常にスマートな展開になった。

《ワークショップ全体の流れ》

第6回 教員研修（ワークショップ）横浜会場

- 日時： 2011年2月19日（土）9：30～16：30 横浜市南部教育事務所研修室
- 題材：「教師のモチベーション」
- 参加者：一般教員24名、大学生・その他2名、指導主事4名 計30名

講義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 俯瞰思考と表現と行動 (フィンランド・日本の新しい教科書)</p>	
ワークショップ1	<p>10：30 全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>11：00 チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見 チームで具体的なテーマ設定</p>	
ワークショップ2	<p>14：30 制作 教師のモチベーションをアップさせるための具体的な提案作成</p> <p>15：30 プレゼンテーション チームでロールプレイをしながら発表</p> <p>アイデア共有 評価（付箋）</p>	
講義	<p>16：00 コーチング育成手法</p> <p>16：20 終了 16：30</p>	

アンケート

題 材：教師のモチベーション

目 的(ビジョン)：仕事、学校をおもしろくするために

目 標(ゴール)：「こうすればモチベーションがアップする！」
具体的な提案書をつくる！

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇ 研修

◇ 時間

◇ 授業準備

◇ 飲み会

◇ 授業準備2

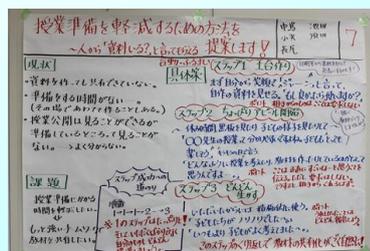
◇ 保護者

◇ 新人

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 年間3回みんなが感動するコーチングをしてくれる講師をよぶ方法を提案します。
- 2 授業準備を軽減するための方法を提案します。～人から「資料いる？」と言ってもらえる言動・ふるまい～
- 3 教師が効果的な発問ができるためのトレーニングをする方法を提案します。
～子どもたちに柔軟に対応できるために～
- 4 2年目の新人がいきいきと過ごす方法を提案します。～GW明けの1日のかかわり方～
- 5 若い先生が気持ちよく19時までには帰る方法を提案します。～充実したプライベートのために～
- 6 「明日もがんばろう！」と思う飲み会のコツを提案します。
～子どもとぶつかってへこんだときも翌日笑顔で出勤～
- 7 無関心な保護者でも来たくなるような魅力ある懇談会づくりの方法を提案します。

ワークショップの成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 横浜 参加者へのアンケート結果

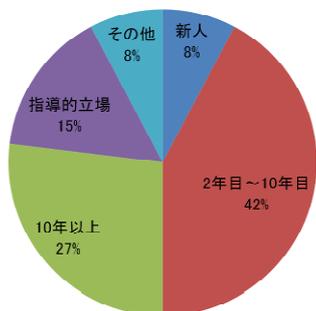


図1 講演会参加者の職位・経験年数

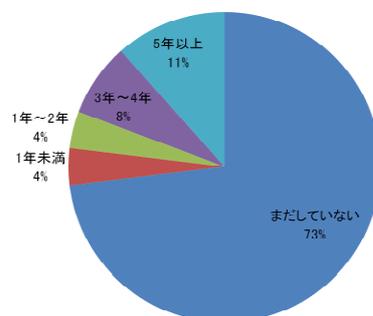


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績



図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

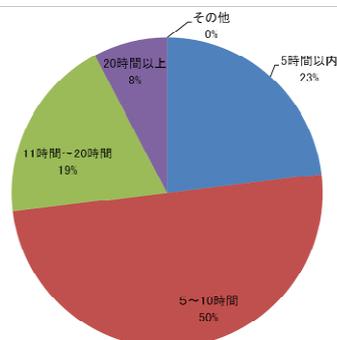


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

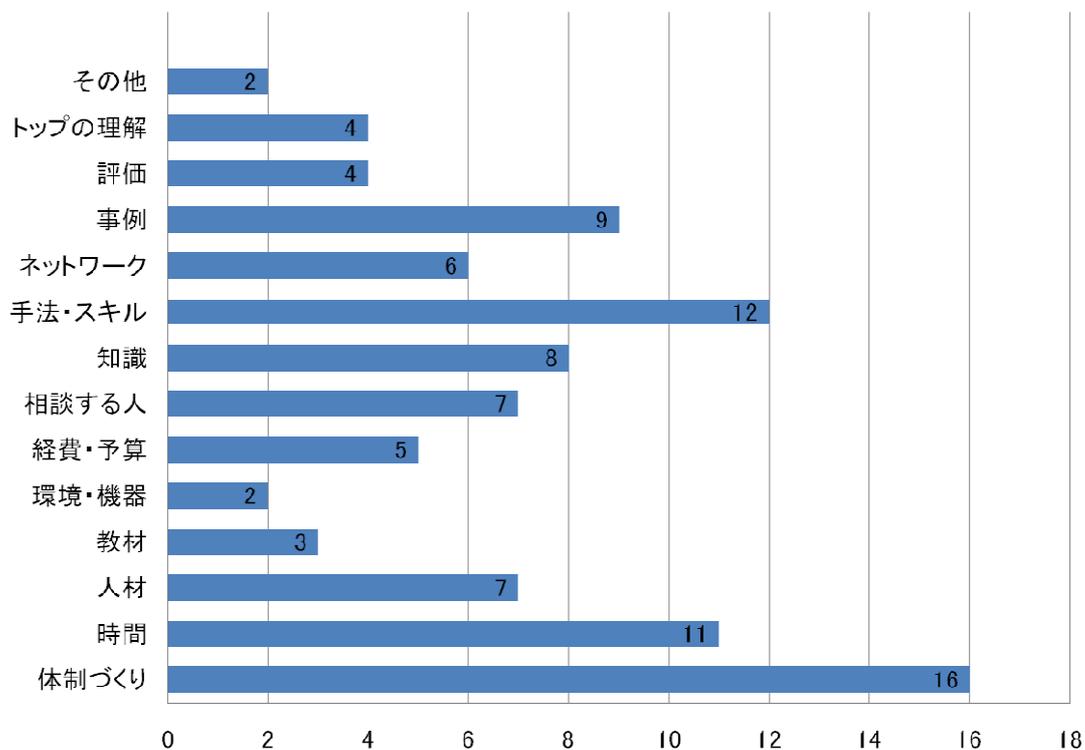


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 横浜（自由記述）

<肯定的評価>

- いろいろな学習、生活の一つ一つに活用できると思う。
- プロジェクト型にすればよいという方ではなく、その中でつけていく力や要素をこちらがはつきり持っていないと活動がよくなる。
- 計画的にやっていく必要があるから難しそうだが、子どもたちの能動的な活動ができそうだからやってみたい。
- とにかくやってみたいと思った。子どもが変わるのが想像できた。
- 鈴木先生が道標となってくださったからできそう。
- 子どもたち一人一人の段階的な訓練も必要だと感じた。
- プロセスがわかったから、実体験したから。
- 校内研究ととても近いので、すぐに取り入れてさらにより学習をつくっていききたい。
- 総合学習では、テーマにしたらよいものをなど吟味してから取り組みたい。
- 初めの勢いが続かず途中でくじけることがあっても、同僚に声をかけて全体に広めることでできそう。
- 学年や管理職の理解を得られればできそう。
- 提示の仕方次第だと感じた。今までのものでも応用でいけると考えた。
- どの教科（総合）もどこでやれるかを検討すれば、あと基本的な考え方を研修すればできそうと思った。
- まだ工夫は必要だが、続けていきたい
- ぜひ一度校内研修を行い、共通理解を分かりやすく説得力がある内容である。
- 適用範囲が広く、ロジックが通って分かりやすい

< 課 題 >

- まだ方法が理解しきれていないため
- まず自分自身が意志ある姿を見せて、他の職員に伝えていく。
- まだ方法が理解しきれていないため。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆数学

- ・単元の最初に単元構成を提示する(教科書に目を通すなど): 俯瞰

☆保健・体育

- ・体育の学習で2時間目、自らの課題を設定する場面でコーチングの手法を使う。

「うまくなりたい」

「どんなふうに」

「どうして」と

☆生活科

- ・ヤゴを嫌がる子がヤゴに触れるようになるために

「ヤゴって何でいやなの？」

「ヤゴの魅力を教えよう。どこが魅力なの？」

「本当にそうなの？」

☆道徳

- ・子どもの本音を引き出し、価値について考えるためにコーチングの手法を使って考えをまとめていく。

☆国語・社会・総合

- ・複数の新聞で取り上げられた共有話題を挙げる。
- ・共通する内容、相違する内容を模造紙に対比して書く。
- ・相違点を挙げてそれぞれの新聞が何に重きを置いているか考えさせる。
- ・自分ならば何に重点を置くか根拠を添えて発表させる。

「プロジェクト学習と基本コーチング」 題材：「教師のモチベーション」

□【制作】

T 「今獲得したデータを表すには、どんなグラフや表が適していると思う？」

ここでもはっきりと「先生方、今獲得したデータを表すには、どんなグラフや表が適していると思う？」というようなコーチングをする。

そして、「子ども達にもそのセリフを言いましょね。」とはっきりと言う。自分たちが研修参加者としてのラーナー（学習者）であり、今自分たちが言われているコーチングを現場では、子ども達に使うんだということを、コーチは促しながら研修を進める。だから、研修参加者は、今の自分のワークショップ研修体験が明日の授業でのコーチングの場面なのであるという、研修者であり現場の実践者でありという2つのスタンスに気づかせるようにしないといけない。

研修に参加して自動的に動くだけのワークショップにしてはいけない。

しばしば、ワークショップはコーチやファシリテーターが参加者を動かすすぎである。

（対象が教師故に、）コーチングの使い所に自ら気づくような問いかけをコーチはすることが有効。

□【プレゼンテーション】

T 「最も自分が求めている所に行きましょう。」

T 「プレゼンターの意欲が上がるような、聞き手の態度をやってみよう。」

プレゼンテーションは、これは、教師が作る、教師のための、成長提案であるので、例えばITで成長したいというチームにはIT好きな教師達がオーディエンスとして集まる。このように、プレゼンターであるチームとオーディエンスが、ニーズ（提供できる者）とシーズ（欲しい者）ということで合わせられるようなプレゼンのシーンになるように「最も自分が求めていると所に行きなさい。」とアドバイスをする。つまり、単にスキルではなくて、コンテンツに対する意欲が湧くようにすることが必要であり、それを促すコーチングをする。「最もあなたに関心がある所へ行っているんだよ。」と言うと非常にプレゼンテーションが盛り上がる。そして、当然のことながらリアクションが非常に高い。

その時コーチはこのように言う。

「プレゼンターの意欲が上がるような、聞き手の態度をやってみよう。」と言う。

そうすると、頷くとか、拍手するとか、「なるほど。」と言うようなリアクションが起きる。

そして、お互いに評価を評価カードに書き合い、模造紙に貼り、さらに提案をよくしてできあがった物が資料である。（ここにも成果物を入れてもよいかもしれない…）

□【成長エントリー】

「今日あなたが身についたことは何ですか？」ということを成長エントリーの場面で必ず入れるようにする。

《ワークショップ全体の流れ》

第7回 教員研修（ワークショップ）千葉会場

- 日時： 2011年3月5日（土）9：30～16：30 千葉大学教育学部5102教室
- 題材： 「イメージ・言葉」
- 参加者： 一般教員38名、図書館司書1名、学生5名、指導主事等5名、看護師1名 計50名

講義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 俯瞰思考と表現と行動 (フィンランド・日本の新しい教科書)</p>	
ワークショップ1	<p>11：00</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見 チームで具体的なテーマ設定</p>	
ワークショップ2	<p>12：30</p> <p>制作</p> <p>子どもがイメージしたことを言葉にしたくなるような具体的な提案作成</p>	
講義	<p>14：30</p> <p>プレゼンテーション チームでロールプレイをしながら発表</p> <p>アイデア共有 評価（付箋）</p>	
講義	<p>15：30</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて コーチング育成手法 参加者各自のまとめ</p>	
	<p>16：20 アンケート</p> <p>16：30 終了</p>	

題 材：「イメージ・言葉」

目 的(ビジョン)：子どもが日常において言語を豊かに活用するために
 ～いろいろな人と夢をかなえられるように～

目 標(ゴール)：教師がつくる、教師のための
 「こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたくなる！アイデア集」
 をつくる

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇ 経 験	◇ 意 見	◇ 改 善
◇ 作 品	◇ 文 化	◇ 比 較
◇ よ さ ・ 魅 力	◇ 変 化	◇ 将 来

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 いろいろなちがいのある人のよさを見つけて言葉にしたくなる方法を提案します
 ～5年生のグループづくりのケース～
- 2 私たちができる生活の改善を言葉にしたくなる方法を提案します
 ～よりエコな生活へ～
- 3 作品を比較して特徴を的確に表現できる方法を提案します
 ～6年生の図工鑑賞のシーン～
- 4 人との関係をよくする日本の知恵を、言葉や身ぶり手ぶりで伝えたいくなるような方法を提案します
- 5 学級での話し合いで、常に受け身の子も 思わず自分の考えを発表したくなる方法の提案
- 6 子どもたちがラジオコマーシャルで地域のよさを伝えたいくなるような方法を提案します!
 ～6年生の総合のシーンで～
- 7 卒業式の時に将来何になっていたかを本音で話したくなる方法を提案します!
 ～通り一遍のことしか話せない子のために～
- 8 1枚の写真からたくさんの言葉で表現したくなるアイデアを提案します
- 9 私が変化した瞬間を言葉にして伝えたいくなる方法を提案します
 ～中3の卒業を前に～
- 10 自分にとって困難を乗り越えた経験をわかりやすく言葉にしたくなる方法を提案します

成果物の例→



ワークショップ手法による教員研修 in 千葉 参加者へのアンケート結果

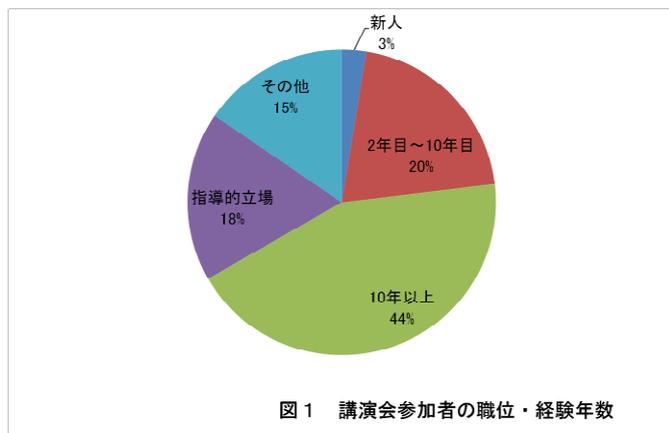


図1 講演会参加者の職位・経験年数

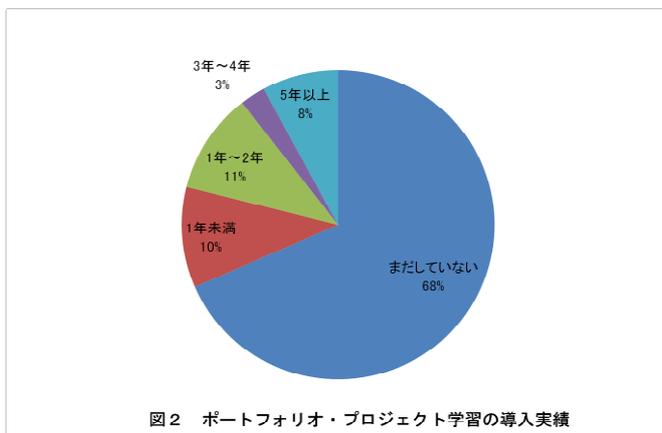


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

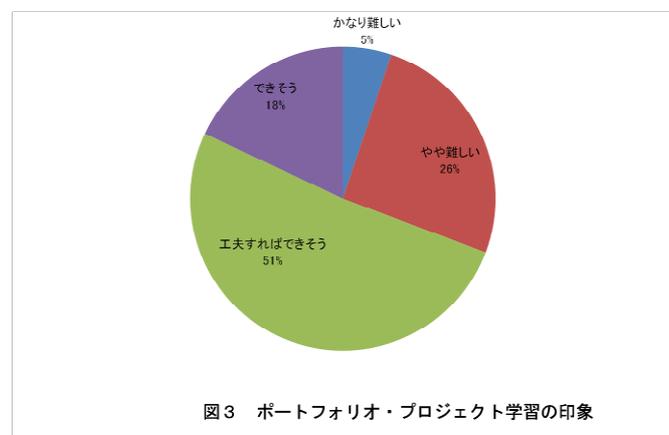


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

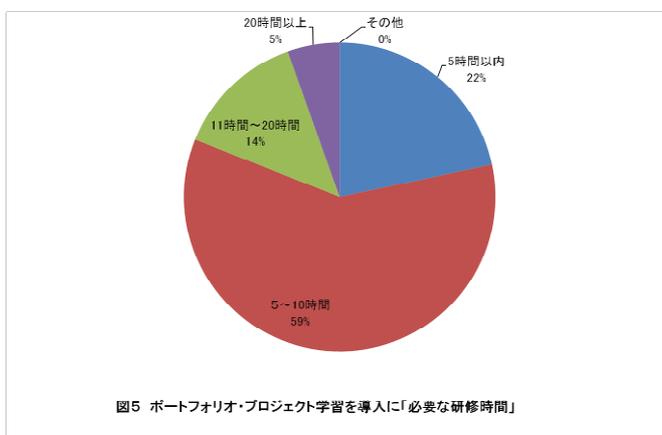


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

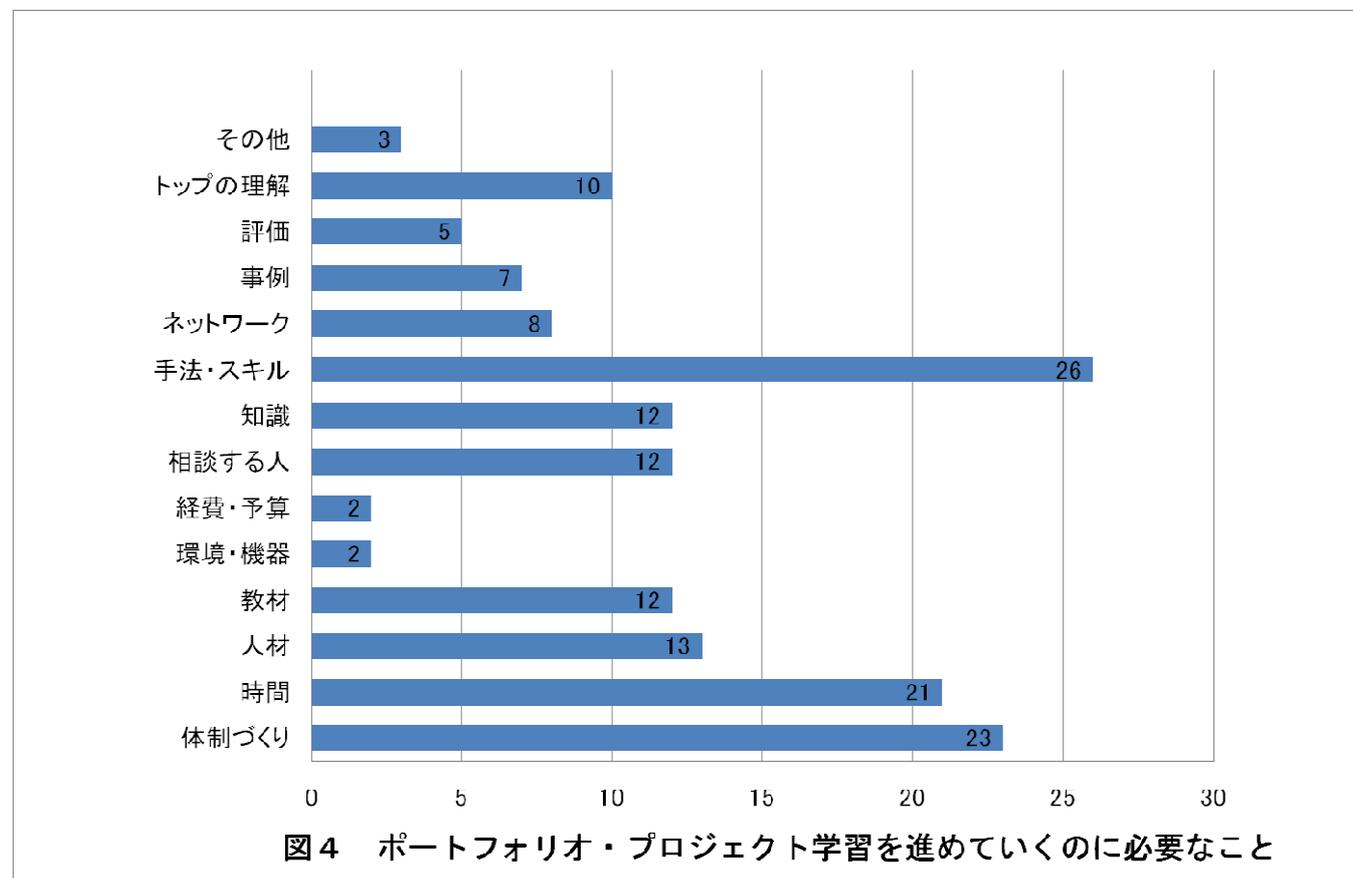


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 千葉（自由記述）

<肯定的評価>

- 生徒がより楽しく力を身に付けられそう
- 今までもやってきたことを体系的にまとめてもらってある
- やってみる気はあるので、希望をもっている
- 出来具合は別にしても、子どもたちの興味関心に向いていると思うので
- 自分も子どもも楽しく力を伸ばせそうだったから
- 始めは難しいと思っていた。いろいろな方の話を聞いているうちにだんだんわかってきた。
- できないと思ったらできない。また、慣れるまでは大変かもしれないが、ぜひとも取り入れていきたい。
- 実践例を教えていただいたから
- 本日の研修がとてもよく構成されており、自信を持てたから
- 研修が充実しているから

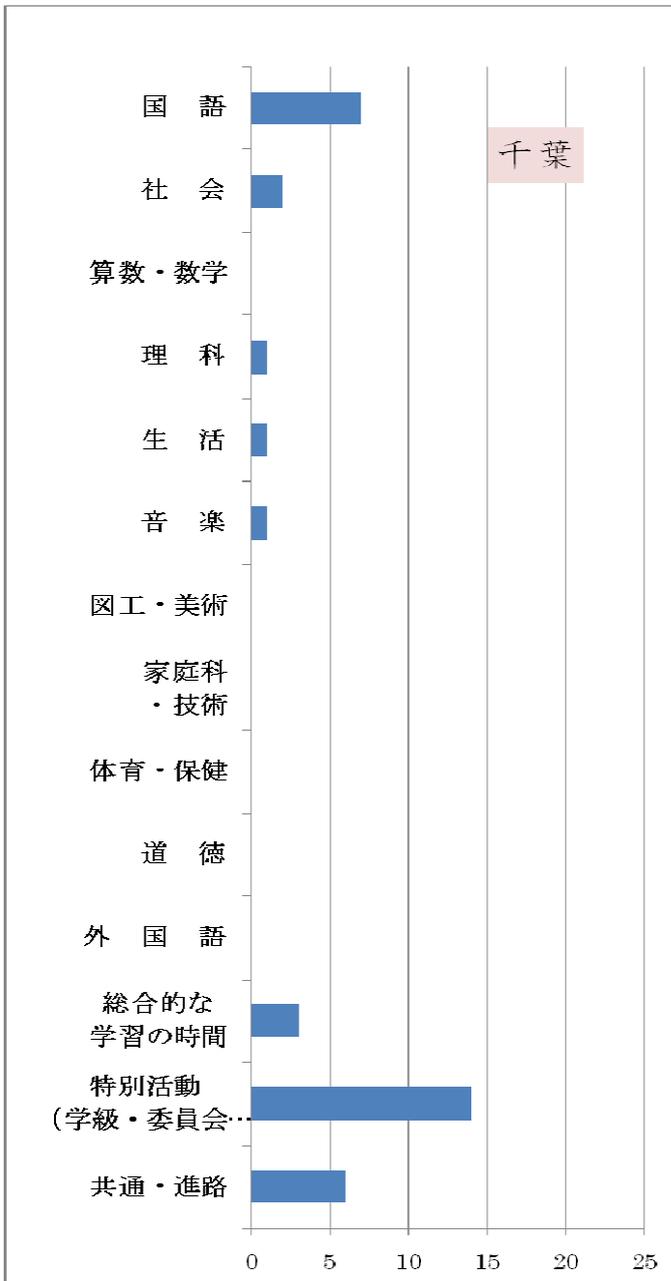
<課題>

- 単学級だと自由にできるが、4学級で組んでいるため、他の方の了承と協力を得られないと、なかなか進めることができない。
- 自分が十分に理解しているとは言えないのと、一つ一つの意味をもっとよく理解してから取り組みたいと思う。
- 心がけようとしていることに近い。ただし、もう少し消化しないといけない。
- コーチングをもっと学びたい、まだ不安があるから。
- まだ、肝心のポイントを習得できていないと感じる
- 実際に何年か使っている。ただ、まだまだ使いこなせているほどではないので、より有効に使えるようにしたい
- 児童の能力によってはとっつきにくい面もあると思われる
- 題材をどうすればよいか
- 教師自身も目的がぶれることはないか
- 1 金銭面 2 学年の継続性 3 教材研究のための時間
- フェーズをいかに意識し大切にしていくか
- ビジョン・ゴールを子どもと共有できるか
- まだ手順がよく理解できていない
- かなりの準備が必要

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

□ 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆音楽

・表現・創作・鑑賞の活動において自ら思いを発し、たくなるような教材・発問やコーチングの工夫に使う。

☆社会科

・グループ作業シーンで、みんなで意見等を主張できるための環境づくりに使う

☆生活科:「植物を育てよう」編

・植物の育て方などを自分たちで考えられるようにする。「考え込むのではなく、自分たちで調べたいような声掛け」に使う。「どうして?」「それから?」など

☆理科

・授業で学んだより良いエコに対する取り組みを卒業生からのメッセージとして1年生に伝えてもらうことに使える

☆国語

・単元導入のシーンで。

・国語は読む目的・目標が非常に不明確なので、後で「何を考え」「どう思ったのか」討論するとき
・読書活動を推進させる際、これまではポスターを情性的に作らせていたイメージだが、今後はポスターをより他社意識、課題意識をもって取り組ませることができそう。

:「説明文の読解」編

・思考の要素をもとに読み取らせ、表現の要素を大切にゴールにつなげる。

☆学級活動

・やる気や目的意識の高い集団作りをする時「何をしたいのか」「何で貢献したいか」

・児童会役員選挙立候補者「何をしたいのか」「それを達成するための手段を具体的に書かせる」「全校生徒に伝えるためのプレゼン準備」

☆総合的な学習

・1年:「自分自身を見つめる」、2年:「他者の生き方を知る」、3年:「自分の将来、進路を考える」という3カ年を通して実践する

プロジェクト学習とコーチングポイント」

題材：言葉

□【制作】

T「あなたたちが一番伝えたいことはなに？」

T「それを的確に伝えるためにどんな表し方をしますか？」

制作というのはプレゼンテーションの制作なので、どれくらいの表現メディアなのか、ボリュームを先に言っておかなければならない。

模造紙2枚という限られた中で何を提案するかということ、相手がわかっていなければいけない。パワーポイントの制作ではなくて、是非プロジェクト学習の研修では、模造紙という全体が俯瞰できる手段の表現媒体をお勧めする。そこに、的確に表現できるようにすることで高度な言語活動になる。

チームで作業していて、意見が割れたり、ぶれたりした時には、「何のために、何をやり遂げたいの？」とゼロベースの議論に戻してあげる。そうすると、自分たちは「〇〇のために、〇〇を」と原点に戻ることができる。

つまり、「目標からぶれていないね」ということを確認するために、コーチングをすべきである。

制作のところではもう一つ、「一番伝えたいことはなに？」というコーチングに対する答えに対しては、「それを的確に伝えるためにどんな表し方をしますか？」とコーチングする。

「言語活動の充実」ということは、学習指導要領にも、非連続テキストで表現することが大事と謳われている。文字、図、表を使って表す。(それはもちろん根拠を表すためなど必然性であるが…)

棒グラフが良いのか、円グラフが良いのか、ここが算数や数学との教科の融合の場面である。

この場面で、子ども達に「どの教科で習ったことがここで使える？」というコーチングをすることによって、子ども達は、「算数！」とか「理科！」とか言うであろう。そのことによって教科に対するモチベーションも上がる。

また、教科書自体が使えるんだ、ということ子ども達(学習者)が気づくようなコーチングをすると、教科全体へのモチベーションがあがる。プロジェクト学習をすることによって、教科の中でもこのコーチングが使えることになる。(もちろん総合的な学習の時間でも使える。)

□【プレゼンテーション】

T「なんのためにプレゼンテーションするの？」

◇「ここをこうすればもっとよくなる。」という視点で評価をかわし合い改善できるようにする

プレゼンテーションというのは生身の人間を相手にするわけだから、「誰のためにプレゼンするの？」とそのターゲットを意識しているかどうかをコーチは確認したい。そして、「その内容が一番伝わる工夫は？」と言った時に、学習者(今回であれば教師)が、姿勢を示すとか、身体的表現を使うなどの、言語だけでないいわゆるノンバーバルな表現や伝達方法をプレゼンに用いるようになる。つまり、ワンパターンのプレゼンテーションスキルを高めるのではなく、思いやミッションがあるからプレゼンテーションの表現がよくなる。

プレゼンテーションの後に、互いに評価して「ここをこうすればもっとよくなる。」といった自分の考えを伝えて、成果物をよりよくしていく思考錯誤の大事さ、もっとよくなりたいという改善アイディア、比較・検討、これらは全て言語活動を充実させる時の思考力の向上につながる。

思考力の向上のためには、目の前に自分たちが考えを表したものを生かしながら、お互いに比較・検討し、改善のアイディアを出し合うことによって、非常にシャープな言語活動が展開されることになる。(分かりやすく言わないと相手に通じないから、分かりやすう衣表現力など)

□【再構築】

T「必ず情報の根拠がわかるような付け加えをしましょう。」

今回の再構築は、W1に見てもらえるように、お互いの考えをブラッシュアップした知財として、知的なものを生む研修として、中身をより良くし、他者に本当に役に立つということを体験してもらうために凝縮ポートフォリオなるものを示す。

コーチングとして「読んだ人がこうすれば言語活動が活発になるのか！」と行動化できるような表現にする。

ここで必要なのはエビデンスである。必ず根拠ある情報：固有名詞や数字など根拠が提案のなかに盛り込まれていることが、「言葉」を題材にした意味であり、価値である。

）教員研修実施後の考察と評価

研修アンケート結果からの考察

・図1「講演会参加者の職位・経験年数」

各会場の講演会参加者の職位・経験年数は、非常に多様であった。

・図2「ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績」

各会場を通じて、「まだしていない」の回答が一番多く、50～73%と分布していた。このことから、未導入の機関のためには、本学習の研修機会を設け、学習内容や方法について理解を深める必要があると考えられた。

・図3「ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象」

各会場を通じて、「工夫すればできそう」の回答が一番多く、50～71%と分布していた。このことから、本学習実施における「工夫すべきポイント」について研修する機会を設けることで、本学習の導入が可能となることがうかがえた。

・図4「ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと」

各会場を通じて、回答が多かったのは、「手法・スキル」「時間」「体制づくり」についての項目だった。「手法・スキル」については研修受講が、「時間」「体制づくり」については組織や上司の理解等が必要であり、本学習の推進に必要な要素が示された。

・図5「ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に必要な研修時間」

各会場を通じて、「5～10時間」の回答が一番多く、46～63%と分布していた。すなわち、1～2日間の短期間の研修受講によって導入が図れることから、本学習実施が導入しやすいことが明らかになったと言える。

・自由記述意見

<肯定的評価>では、「指導者側が学習方法を理解して、工夫すれば使えそう」という意見が多く、上記の考察を裏付ける内容が、自由記述に記載されていた。一方で、<課題>としては、本学習についての「指導者側の理解」「職場や同僚の理解」が挙げられており、今回のような研修等を通じた本学習への理解を深める必要があると言えた。

・アンケート結果のまとめ

今回、全国各地で実施した教員研修には、多様な職位や経験年数で、且つ本学習の未経験者に数多く参加してもらった。各研修会参加者からの本学習導入に関する意見は、同じような傾向が見られたことから、どの地域においても少ない研修回数で比較的容易に導入が図れる可能性があると言える。そして、本学習導入については、職場や組織の理解を併せて得ていく必要があることが明らかとなった。

ポートフォリオ・プロジェクト学習実施についての評価

取組事例の調査研究の成果

取組事例の調査研究・収集から、子どもたちの課題解決のプロセスにおける言語活動の内容が把握できることでより効果的な思考や解決策につながるコーチングを提案できる。この成果としてのコーチングカード等を提供することで子どもたちが「意志」をもって自ら学ぶことやまた、社会の変化の中で自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断できる授業を実施することができる。

試行的教員研修の成果

プロジェクト学習やポートフォリオを活かした授業ができるようになるための基本知識と、課題解決能力や同時に自信や有能感も高まり学習意欲が向上するコーチングなどをねらいとした教員研修により、課題を解決するために多様な情報から結論を導ける思考力、その考え方の根拠を示して伝えられる力、またポートフォリオを再構築することで自分の考えを分かりやすく文章にあらわせる能力などを育める指導力、コーチング力も修得できる。

また、実践者が次の講師になるため教員研修を持続的に拡大しつつ実施される波及効果も予想されるが、基本のねらいを押さえ、教員同士が情報共有でき楽しい研修のため、参加教員の継続性を持つ。

教員研修プログラムを通じて

開発した教員研修プログラムを活かして、教育委員会などの協力（主に研修会場の提供や広報）を得ながら、現場の教員や教育委員会に負担が少なく、教員研修が行えた。このことから、実施持続が容易となると言えた。

また、当プログラムは参加型の研修でもあり、教師がモチベーションをもって学べたことが報告された。そして、経験知のある教員同士が学び合うことで、総合的な学習だけでなく、各教科においても授業のマネジメントとしてプロジェクト学習方法、ポートフォリオ評価およびコーチングが使えるようになったとの意見もあった。その結果、授業と評価の一体化が確実に図られるようになり、子ども1人ひとり、かつ、全員の評価ができるようになると考えられる。

加えて、当該事業がナレッジマネジメント機能をもち、実践者が互いに協力しあい、そのネットワークを活かして教員研修を実施することで、言語活動を重視したコンピテンシーを高められる教育能力の向上を果たせると思われる。

事例集作成を通じて

作成する「実践事例集」を参考にすることで、はじめてポートフォリオやプロジェクト学習を行う教員にとって、企画計画を立てやすくなる。また、実践を進めていく上で問題(授業の進め方等での課題)が生じた場合も教員間(実践者と)のネットワークが組みやすく、子どもたちの力も伸ばしやすい。